

特36

515

經典餘師 孟子

二

孟子朱熹集註

公孫丑章句上

公孫丑問曰曰夫子

齊當路管仲

晏子之功復許可乎

孟子曰曰子誠小齊

人人管仲晏子を

知已

或ひと曾西問て曰

吾子子路孰賢曾西

曾西蹇然とて

孟子朱熹集註

公孫丑章句上

溪世尊譯

公孫丑問曰夫子當路於齊管仲晏子之功可

復許乎公孫丑の問ふ。夫子齊の國に用ゐるのひ國の政務を執るる人に當り如何なる功を立ぬらんや古へ齊の名

孟子曰子誠齊人也知管仲晏子而已矣を挙げり。管仲晏子等ももあつるや。と夫子の心は許ぬふかとなり

孟子曰子誠齊人也知管仲晏子而已矣御者に吾子ハ誠ニ齊ノ生レリ人ナド有テ只管仲晏子ヲ勝レリ人ト而已ルベシトヤト

或問乎曾西曰吾子與子路孰賢曾西蹇然曰

吾先子之所畏也曰然則吾子與管仲孰賢曾

曾西蹇然曰

曰く吾先子之喪所
る曰く然らば則ハ
吾子管仲與孰ハ賢
る曾西絶然と一して
悦び不曰く再が何ぞ
曾ハ予と管仲と比
せら管仲君を得と彼
が如きハ其專ハ
り國政を行ふ彼
如きハ其久一功烈
彼が如きハ其卑一
再何ぞ曾ハ予を是
と比せら

西絶然不悦。曰爾何曾比子於管仲。管仲得君
如彼其專也。行乎國政。如彼其久也。功烈如彼
其卑也。爾何曾比子於是。此段聖賢の徒ハたとへ世に名の聞め
る人として中正なる道を行はざる
者ハ尚とむべし。問て曰く然ハ管仲と如何曾西聞て絶然に悦びぞ。曰
吾子と子路と孰ハ賢と問ルも曾西絶然思ひて子路ハ吾先子曾子より
いふ所の人なり。問て曰く然ハ管仲と如何曾西聞て絶然に悦びぞ。曰
吾子と子路と孰ハ賢と問ルも曾西絶然思ひて子路ハ吾先子曾子より
國政を執行するに四十年彼が如ハ專ハ久一と功烈の卑さなり。仁
仁義を心とせざして名を假るのなり。功烈の卑さなり。仁

曰管仲曾西之所不爲也。而子爲我願之乎。
孟子の語なり。管仲ハ君を覇者となし。晏子ハ君を
不足爲與。天下小顯せり。かや。なる人も不足なり。と爲べきや。

曰管仲以其君霸。晏子以其君顯。管仲晏子猶
不足爲與。公孫丑曰。然ども管仲ハ君を覇者となし。晏子ハ君を

曰く管仲其君を以て
覇とせ。晏子其君を以
て顯ハせ。管仲晏子猶
爲不足不與。
曰く齊を以て王と
と手と反が由一
曰く是の若ハ則ハ
弟子之惑ハ滋ハ甚
且文王之徳を以
て百年に一して而
て後ハ崩也。猶未と天
下に洽らざる。未武王周
公之ハ一繼で然一して
後ハ大ハ行ハる。今王
とんと易が若一と
言然ハ則ハ文王ハ

曰以齊王由反手也。御者中くの事。今齊を天下の主とす。
曰若是則弟子之惑滋甚。且以文王之徳。百年
而後崩。猶未洽於天下。武王周公繼之。然後大
行。今言王若易。然則文王不足法。與。公孫丑曰。若の
滋甚惑ハ如何と。周の興るも。め文王の身聖人に在り。ては百年
して崩。ハ如何と。天下へその威光御惠洽らざる。その跡ハ武王周公の二聖
人引つひて出のひ。而後小ヤ。御威光と。今先生ハ齊の王と
なり。ハ心易らんと。ハ聖人文王も法とせら。足せと。ハやとなし。

曰文王何可當也。由湯至於武丁。賢聖之君六
七。作天下歸殷久矣。久則難變也。武丁朝諸侯
有天下。猶運之掌也。紂之去武丁未久也。其故
家遺俗流風善政。猶有存者。又有微子微仲王

有地改め辟不民改め聚不仁政を行はしむ

而して王とすハ之を能樂くと莫らん

且王者之作ら不未此時

時より疏者有未民之虐政に憔悴する未此時より甚そ

者有未饑する者ハ食を爲易し渴する者ハ飲を爲易し

孔子曰くハく徳之流行置邦に

て命を傳より速やうなり

當今之時萬乘之國仁政を行ハ

仁心を施すにその徳の流行と速に

て民の帰服し易きとをたといえ

置を以て早きたりとならば如しと聖人ものり

當今之時萬乘の大國仁心を行はしむ

萬民の悦と解倒の如くは

此由天下の霸王とさるべきともそれハ

異るか否となら孟子の御答に否の

我四十不動心

公孫丑問曰夫子過孟賁遠矣曰是不難告子先

我不動心有道乎曰有

於人若撻之於市朝不受於褐寬博亦不受於

萬乘之君視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯

惡聲至必反之

北宮黝之養勇也不膚撻不曰逃思以一毫挫

於人若撻之於市朝不受於褐寬博亦不受於

萬乘之君視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯

惡聲至必反之

悦ふと倒懸を解

猶一故ゆへ

古之人半にして

功必倍之倍せん惟

此時を然と爲

公孫丑問て曰く夫子

齊之卿相を加へ道を

行ふと得ハ此由

て霸王と雖ども

異し不此の如く

我不動心

公孫丑又曰く今夫子の詞の如く

ハ我不動心有道乎

曰有

於人若撻之於市朝不受於褐寬博亦不受於

萬乘之君視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯

惡聲至必反之

北宮黝之養勇也不膚撻不曰逃思以一毫挫

於人若撻之於市朝不受於褐寬博亦不受於

萬乘之君視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯

一て縮むる不ハ禍
寛博と雖ども吾憚
不ん自の反一て
縮ハ千萬人と雖ども
吾往らん

孟施舍之氣を守り又
曾子之約を守りに如不
曰く敢て問夫子之心
と動りさ不告子之心
と動りさ不與聞とを
得可與告子曰く言
得不とも心よ求ると
勿と心よ得不とも氣
よ求むると勿と心よ
得不とも氣よ求むると
勿とと可なり言

得不とも心よ求むると
勿とと可なり夫志
ハ氣之帥也氣
ハ體之充る也夫志
ハ至氣ハ次故
ゆへに曰く其志
を持て其氣と暴
と無
既曰く志
至氣ハ次又曰く其志
を持て其氣を
暴と無と者何ぞ
曰く志
ハ則ハち氣を動り
氣壹なるとハ則ハち志
と動り也今夫

公孫丑又曰く夫子と告子と心を動かさる所以ハ心の敢て御問申と
孟子答のふハハかの告子常小ゆるハたとハ口より心とところ
理をとり放さむと必心心の知とならば心よ思ひよ
とり失さむと一身の氣の與とならば心よ得と氣よ求ると
勿とハ可とらる又言よ得と心に求ると勿とハ不可とらる
なり氣とハ一身よ充るのなり志ハ心のゆく処なるとハ至極の大切なり氣ハ其次なり
この故よ志を養ひ持て其氣
をそこなむとらる

既曰志至焉氣次焉又曰持其志無暴其氣者

何也曰志壹則動氣氣壹則動志也今夫蹶者

趨者是氣也而反動其心

持て氣を暴めぬとハ何なるに御答曰く子細ハ志
やる時ハ氣を動かさる元より氣ハ志に
りあると氣も壹に
一よこえ志を
ハ志を
もゆる故なり極て心を動かさる
敢問夫子惡乎長
右もに告
子と異なる

所以ハ心の敢て御問申と
孟子答のふハハかの告子常小ゆるハたとハ口より心とところ
理をとり放さむと必心心の知とならば心よ思ひよ
とり失さむと一身の氣の與とならば心よ得と氣よ求ると
勿とハ可とらる又言よ得と心に求ると勿とハ不可とらる
なり氣とハ一身よ充るのなり志ハ心のゆく処なるとハ至極の大切なり氣ハ其次なり
この故よ志を養ひ持て其氣
をそこなむとらる

敢問何謂浩然之氣曰難言也

其爲氣也至大至剛以直養而無害則塞于天

地之間

又仰ハハの言

其爲氣也至大至剛以直養而無害則塞于天

地之間

又仰ハハの言

其爲氣也至大至剛以直養而無害則塞于天

蹶者趨る者は氣なり
反て其心を動りて
敢て問夫子悪ん乎長
そ曰く我言を知我善
吾浩然之氣と養ふ
敢て問何を浩然之氣
と謂曰く言難
其氣爲至大至剛なり
直を以て養ふて害
せりて無バ則ハち天
地之間に塞グ
其氣爲義と道與を配
そ是餒と無
是集義の生むる所の
者なり義と襲て之を
取レ非レ行なひ心よ

也上よりくる正直を以て養ふとハ内ふある本体をいふるに説くハ外へ
發する用き採い右のどく害ハギて養ふハ義と道とをおこなふ
氣こそこれガ助とるる疑惑となくして餒とハ食事
うて不足なるなり不足なきバうて心動そとあり
是集義所生者非義襲而取之也行有不慊於
心則餒矣我故曰告子未嘗知義以其外之也
正直を以て氣を内ふるは義ハうに集まる而して氣浩然
其義より生し出て出るハ身のおこなふとく義と道とに合なり一ツの義理
合しを襲りてむとくおこなふその義にりるべきを知らずハあや
ハハ心にこころ嫌むして餒なる元來告子が義と知りぬといふも義ハ外あり
といふかゆくなり襲とハ本戦争の時の詞なり味方そる人をなさるて敵にこ
由所あるとおもひぬ幸とて己ガ利を得んとするものなり其如
一事のつゝ義理にりるむと例とをて浩然の氣をもやハて感く義理
にりるりんとを知らずハあや
なりなるにたとへるなり

必有事焉而勿正心勿忘勿助長也無若宋人

憊より不と有バ則
ハち餒我故がゆへ
曰く告子未嘗て義
を知ら未其之を外
をを以てなり
必らば事有正心勿
そと勿と心よ忘
と勿と助け長と勿
宋人の若く然るも
無と宋人其苗之長
不を聞ひ而して之
と握者有芒然
て歸其人と謂て曰く
今日病る予苗を助
長と其子趨て往
之と視バ苗則ハち植

然宋人有聞其苗之不長而掘之者芒芒然歸
謂其人曰今日病矣予助苗長矣其子趨而往
視之苗則槁矣天下之不助苗長者寡矣以爲
無益而舍之者不耘苗者也助之長者揠苗者
也非徒無益而又害之
必らば事有正心勿忘勿助長也無若宋人
りんとて正し心ふらぬゆへに事おこなふべき有を忘るて常し氣を
ヤリするふ自己の私して作爲をりる氣の長とすて助長
とさるる殊の外ありまなり作爲のありさといふた人ハ宋人の苗のど
とさるる必らば然しゆへにそとそ宋の國の人ハ苗を種て長とすを聞ひそと生
長とめいと土ハ少引掘て置たり芒然歸て人ハ小申やハ今日病る
病る苗の生長とるを助へるといふその子趨て往て視よと植り今日病る苗
を助し長せざるものいな無益なりといふて苗を捨ハ苗を耘さざるもの
のなりする助ひて長生といふものハ右握捨るといふものなり内ハ氣の充を
待といふとさくバ徒つゝに無益
してや言なりといふものなり

ハ則ハ孔子を學ぶん
伯夷伊尹が孔子に於
是の若く班一乎
曰く否生民有て自
來未と孔子有未

曰く然バ則ハち同ト
さと有與曰く有百里
之地を得て之君
朝一天下と有ん一の
不義を行さむ一の不
辜を殺して天下を
得皆爲不是則ハち同

曰く敢て其異する所
以を問曰く幸我子貢

より興て天下の帰服を得て上り立諸侯を來朝せしめ天下と有ん一ツも
不義を行ハせず一人も不辜を殺さずハ是同トの如くんとす

曰敢問其所以異曰幸我子貢有若智足以知

聖人汗不至阿其所好公孫丑又問て曰く然バ孔子の如き聖人ハ

宰我曰以予觀於夫子賢於堯舜遠矣

子貢曰見其禮而知其政聞其樂而知其德由
百世之後等百世之王莫之能違也自生民以

來未有夫子也子貢も云へり凡そ世々の礼式法度を考へて其政務
を知れたるも其衆和の德を見てその淺深甲乙を知

也火も違て依て男の孔子の如き大とくハ有未となり

有若曰豈惟民哉麒麟之於走獸鳳凰之於飛

鳥太山之於丘垤河海之於行潦類也聖人之

於民亦類也出於其類拔乎其萃自生民以來

未有盛於孔子也有若も云へり豈一民の如くん走とものよてハ
麒麟あり飛ものよてハ鳳皇あり丘垤より

○孟子曰以力假仁者霸霸必有天國以德行

仁者王王不待大湯以七十里文王以百里

上篇曰一霸の事ハ註に出たり其の相公冒の文公といひきく魏の曾操昔の
司馬炎等の挙動天朝にてハ信玄輝虎信長秀吉諸公の類なり威力を以て人を服

愛憐を見せて人を懐け賞罰を明して人を帰服せしむこれぞ仁を假するなり
示すといふのなり故に國の勢ひ大なるハ能ハざるなり王者ハ
大國なりても自然の德を以て心中の仁愛より万民を子の如く恤むのみ
應神天王仁徳天王の御たくひなり忘る考へ

有若ハ智以て聖人を
知不足汗ども其好む
所一阿するに至不
幸我曰く予を以て夫
子を觀バ堯舜一賢な
こと遠
子貢曰く其礼を見て
其政を知其衆を聞
て其德を知百世之後
由百世之王を等する
に之能違と莫生民
自以來未と夫子有未
有若曰く豈惟民の
哉麒麟之走獸
於る太山之丘垤於

る河海之行流に於る
聖人之民に於るも亦
類なり其類を出其萃
まざるを拔生民自以来
未だ孔子より盛なる
ハ有未

孟子の曰く力を以て
仁を假者ハ覇（ハ）
覇ハ必大國を有徳
を以て仁を行ふ者
ハ王（ハ）王ハ大を待
不湯ハ七十里を以て
文王ハ百里を以て
力を以て人を服する
者ハ心服ハ非ざるな
り力贖不ハなり徳を

以て人を服する者ハ
中心に悦んで誠
服するなり七十子之
孔子ハ服するが如
詩云く西自東自南
自北自思ひ服せ不
無此之謂なり
孟子の曰く仁らば
則ハち衆不仁らば
則ハち辱なり一む今
辱を悪で不仁に居ハ
是濕ちふを悪んで下
に居が猶
如之を悪まバ徳を貴
とんで士を尊とぶよ
如ハ莫賢者位に在能

以力服人者非心服也力不贖也以徳服人者
中心悦而誠服也如七十子之服孔子也詩云
自西自東自南自北無思不服此之謂也

右の訳ゆへ力を以てなすハ人々心より服するとして非已の力勢の贖
て已と心得ざるハ徳を以てするハ心中より誠し歸服をなしたとくハ孔門
七十子の如く歸服して甚だしく詩經にも仁徳を
以てすれば四方に及ぶなり服せざるハハナリとあり

○孟子曰仁則榮不仁則辱今惡辱而居不仁
是猶惡濕而居下也

今日道を行て論語にもいへる愚にあつたは
の仁心を行ふたこと榮ざる事やあらん仁
居となく是猶濕へること惡しあつて却て下き土地に居小むとさなり

如惡之莫如貴徳而尊士賢者在位能者在職
國家間暇及是時明其政刑雖大國必畏之矣

人の上なる者の第一は慎むべき事なり如辱めを惡とあひぬ徳ある人を尊とひ
のむて才能ある人を貴しめ賢人を上位にそるる能者各々官職に在ハ
りて其の仁心治世して國家間暇なる時あるを政刑を明
りしめて仁心を施しぬる人々歸服して大國も畏へ

詩云迨天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖戶今此
下民或敢侮予孔子曰爲此詩者其知道乎能

治其國家誰敢侮之 此詩の心ハ鳥の巢を作ら雨の難義いさ至ぬ
をきて彼桑の葉又ハ土なとをくり徹来て巢の牖戶の処を綢繆いとむとな
りむを引たとて國を治るもそのとく政道の源を網繆るハ乱害の生むこと
なく敢て予を侮ると或やと周公の作ら処なり聖人むを好しむし
この詩ハ道を弁知し人の作ら能治る時ハ誰か敢て之を侮らんや

今國家間暇及是時般樂怠敖是自求禍也

當今國治家安穩して世上間暇なる小乗て人々
般樂怠敖ぬ是自の禍ハひをやるひさ求といふ者なり
禍福無不自已求之者 本禍も福も吉凶は己の身
より求め引出その理なり

者職_レ在_レ國家間暇_レ是時_レ及_レんで其政刑を明_レりにせば大國と雖ども必_レり之を畏_レる詩云く天之未_レと陰兩_レせ未_レと追_レて彼柔土を徹_レて牖_レ戸を綢_レ繆_レ今此_レ下民敢_レて予_レと侮_レとる_レと或_レん孔子曰_レま_レハく此詩_レを爲_レ者_レハ其道_レを知_レ乎能_レ其國家を治_レめ_レハ誰_レり敢_レて之を侮_レとらん今國家間暇_レ是時_レ及_レんで般_レ祭_レ怠_レ教_レは是_レ自_レ禍_レハ_レひを求_レむる

詩云_レ永言配命自求多福太甲曰_レ天作孽猶可_レ違自作孽不可_レ活此之謂_レ也詩經の常道を重く守て永く天の命_レ配事を言_レへ_レ自_レ多_レくの福を求_レるの理_レなり書經の太甲の篇_レ曰_レく旱_レ損_レ水_レ損_レ五_レ教_レは害_レめんと_レ必_レず_レ一_レも_レ尽_レく飢_レ死_レせんと_レや_レこれ_レ天_レの作_レ孽_レハ猶_レ違_レへ_レさ_レなり_レも_レの_レを_レ自_レ作_レ罪_レ咎_レハ活_レる_レべ_レら_レず_レと_レなり
○孟子曰_レ尊賢使能俊傑在位則天下之士皆悦而願立於其朝矣皆_レ上_レ明_レの_レ治_レる_レとい_レふ_レも_レ名_レある_レ士_レ徳_レある_レ人_レ國家_レを_レ治_レる_レに_レ賢_レ人_レを_レ尊_レび_レ才_レ能_レある_レ人_レを_レ其_レ役_レく_レ小_レ使_レて_レ俊_レ傑_レ者_レ位_レに_レ備_レは_レさ_レば_レこれ_レを_レ聞_レて_レ天下_レの_レ名_レある_レ士_レも_レ皆_レ悦_レこ_レび_レて_レ何_レと_レぞ_レの_レく_レら_レそ_レの_レ朝_レ列_レに_レ班_レらん_レと_レぞ_レの_レ心_レと_レなり
市塵而不征法而不塵則天下之商皆悦而願藏於其市市塵_レの_レ者_レは_レ征_レ税_レを_レな_レさ_レず_レ夫_レく_レの_レ定_レ法_レあり_レて_レ塵_レの_レ御_レ益_レの_レく_レら_レる_レの_レなり_レと_レなり_レを_レ聞_レて_レ天下_レの_レ商_レ人_レも_レ皆_レ悦_レこ_レび_レて_レ其_レ市_レに_レ藏_レせん_レと_レ願_レべ_レし

禍福已_レと自_レ之_レと求_レめ不_レ者_レ無_レ詩云く永_レく言_レ命_レに配_レ自_レ多_レ福_レと求_レむ_レ太_レ甲_レに曰_レく天_レの作_レる_レ孽_レハ_レひ_レ猶_レ違_レ可_レ自_レ作_レる_レ孽_レハ_レひ_レハ活_レ可_レく_レ未_レと_レ此_レ之_レ謂_レ也孟子の曰_レく賢_レと_レ尊_レひ能_レを_レ使_レひ_レ俊_レ傑_レ位_レに_レ在_レハ_レ則_レハ_レち_レ天下_レ之_レ士_レ皆_レ悦_レこ_レんで_レ其_レ朝_レに_レ立_レん_レと_レを_レ願_レふ_レ市塵_レして_レ征_レせ_レ不法

關譏而不征則天下之旅皆悦而願出於其路矣國_レの_レ境_レ關_レ所_レく_レの_レ役_レハ_レ其_レ非_レ常_レと_レ戒_レめ_レ譏_レの_レに_レて_レ旅_レ人_レの_レ荷_レ物_レ等_レの_レ征_レと_レなり_レと_レぞ_レの_レ國_レの_レ路_レ筋_レへ_レ出_レと_レ願_レべ_レし
耕者助而不稅則天下之農皆悦而願耕於其野矣田_レ地_レを_レ耕_レす_レの_レ法_レは_レく_レ井_レ田_レの_レ助_レ法_レを_レ用_レて_レ其_レの_レ征_レ税_レを_レか_レけ_レざ_レれば_レ天下_レの_レ農_レ人_レも_レ皆_レ悦_レこ_レび_レて_レ其_レの_レ國_レの_レ田_レ野_レを_レ耕_レさん_レと_レ願_レべ_レし
塵無夫里之布則天下之民皆悦而願爲之氓矣古_レへ_レ民_レの_レ驕_レ奢_レする_レ者_レ宅_レに_レ桑_レ麻_レを_レ種_レぬ_レと_レも_レハ_レ罰_レ金_レ一_レ里_レの_レ廿_レ五_レ軒_レの_レ布_レを_レ出_レさ_レし_レむ_レこ_レれ_レと_レ夫_レ里_レの_レ布_レとい_レふ_レ今_レ乱_レ世_レた_レく_レし_レの_レ折_レふ_レる_レを_レハ_レ塵_レの_レ定_レを_レ出_レさ_レし_レ夫_レ里_レの_レ布_レを_レ上_レへ_レと_レん_レの_レゆ_レて_レハ_レ苦_レく_レに_レぞ_レん_レぞ_レ此事_レなく_レハ_レ民_レ悦_レこ_レび_レて_レ其_レ國_レの_レ氓_レと_レん_レと_レを_レ願_レべ_レし
信能行此五者則鄰國之民仰之若父母矣率其子弟攻其父母自生民以來未有能濟者也如此則無敵於天下無敵於天下者天吏也然

て塵せ不バ則
ハチ天下之商皆悦
んで其市に蔵さんと
願

關議て征せ不バ則ハ
チ天下之旅皆悦
で其路に出んと願

耕へも者ハ助
税せ不バ則ハチ天下
之農皆悦こんで其野
に耕さんと願

塵は夫里之布無きバ
則ハチ天下之民皆悦
こんで之が氓と爲を
願

信は能此五の者を行

而不王者未之有也

仁者戦ハ必だ勝とてくるハ他
大将ハ人の帰服を得てよその睦
敵を討つゆへに信ハ右の如く行ハ
なすむかくのどくハ能濟の今の世
敵對をなすものハ未だ然るを

○孟子曰人皆有不忍人之心

人ハくの性實ハ本天の正氣
善心なるゆへに心もなだるな
是を本心といふなり又人ハ心も
不忍人之心

先王有不忍人之心斯有不忍人之政矣以不

忍人之心行不忍人之政治天下可運之掌上

その忍らぬ心ハ仁心の發するなり先王の政道といふも他のことなるぞ万民
をいふも一て惠人と忍びぬるより政道なりそのあひびさるる天下
に充ちバ人ハ帰服して心安く治
まるとハ掌上の如く握るが如し

所以謂人皆有不忍人之心者今人乍見孺子

將入於井皆有怵惕惻隱之心非所以內交於

孺子之父母也非所以要譽於鄉黨朋友也非

惡其聲而然也

たとい人を殺して金を奪んとするもの者もていふ水を見てハ抱留んとする心
おふる水忍らざる心もて人ハ仁心の備はるる證據ある人を殺の悪心向とも
それハ欲といふ心もていふ者もていふ人ハ無我無心より本心ありて
る一其孺子を抱留るのていふ本入魂の交を其父母も求め内といふ所存もてい
ふく又善心ありと譽を擲黨の朋友も要るもていふくもていふ人ハ惡さぬはいり
聲を聴くと然にするもていふ心もていふ能く本心を思惟いす

由是觀之無惻隱之心非人也無羞惡之心非

人也無辭讓之心非人也無是非之心非人也

是理ハ由て考ハ人ハ心強くして惻隱の心もていふ人ハ無心似る者ハ
能くの人非人ありて差懸る心もていふ人といハ是れ非人なり辭退の心もていふ
らず又是非の心もていふ人

ふらば則ハチ鄰國之
民之を仰ぐと父母の
若し其子弟を率ひ
其父母を政生民自
來未と能濟者有未此
の如くんバ則ハチ天
下ハ敵無天下ハ敵無
者ハ天吏あり然
て王く不者の未
之有未
孟子の曰く人皆人ハ
忍び不之心有
先王人ハ忍び不之心
有ハ斯人ハ忍不之政
と有人ハ忍び不之心
を以て人ハ忍び不之

て後發す發
て而中不已
勝者を怨み不友て請
と己を求むる而已
孟子の曰く子路人之
ふ告るに過まら有を
以てすとハ則ハ喜
さふ
禹善言を聞ハ則ハ
拜す
大舜焉ハ大なること
有善人與同去ふす己
を舍て人小從のふ人
小取て以て善を爲を
樂む
耕稼陶漁せし自以

○孟子曰。伯夷非其君不事。非其友不友。不立於惡人之朝。不與惡人言。立於惡人之朝。與惡人言。如以朝衣朝冠坐於塗炭。推惡惡之心。思與鄉人立。其冠不正。望望然去之。若將浼焉。是故諸侯雖有善其辭命而至者。不受也。不受也。者是亦不屑就已。
此段孟子いふ一への伯夷柳下惠の事を論じしむ。伯夷ハ己が心小君とすべからざるの事あり。其れハ之小事其交ハるべし人小友とせず。惡人のある政道の朝班にハる。ちす。り。ヤ。惡人と立立とゆる時ハその人との言あり。何れも惡とおひふ。その心を推したるハ。郷人と立立。びてそのらんむ。の不正を見てハ。望望然。て立。我身の流んとする。中。思ひぬ。是故諸侯方。辭命を善敬。迎。至。受。受。水。是。全體の。と。官。祿。に。就。し。肩。より。思。ハ。さ。る。故。と。ぞ。

柳下惠不羞汙君。不卑小官。進不隱賢。必以其

て帝爲。至て人小取
小非ざる者無諸と人
小取て以て善を爲是
人與善を爲者あり故
し。小君子人與善を
爲。大なるハ莫
孟子の曰く伯夷ハ其
君小非ざるハ。事不其
友小非ざるハ。友せ不
惡人之朝。小立不惡人
與言。ハ不惡人之朝
小立て。惡人與言。し。く
ハ。朝衣朝冠を以て塗
炭。小坐する。如
惡を惡む之心を推思
郷人與立其冠む。正

道遺佚而不怨。阨窮而不憫。故曰爾爲爾。我爲我。雖袒裼裸裎於我側。爾焉能浼我哉。故由由然與之偕。而不自失焉。援而止之。而止。援而止之。而止者。是亦不屑去已。
柳下惠ハ知の汗君を注君とふ。てす。ね。世。用。水。人。と。進。む。く。み。て。自。己。賢。徳。あり。を。隠。す。て。道。を。尽。を。以。て。人。小。拘。ハ。る。と。ふ。く。た。と。く。世。の。暗。し。く。見。出。さ。と。す。遺。佚。ハ。ひ。て。も。怨。む。く。も。せ。し。如何。ある。泥。躬。を。も。憫。と。せ。し。む。の。故。小。常。に。曰。ふ。再。ハ。再。次。弟。あ。る。我。ハ。我。あ。る。我。側。に。袒。裼。裸。裎。小。あ。る。傍。若。無。人。あ。る。振。舞。を。ふ。す。者。何。く。も。焉。我。を。浼。お。と。め。む。や。と。右。中。の。心。小。由。由。然。て。俗。と。與。偕。何。と。も。操。行。を。失。ふ。ハ。す。苟。そ。め。ふ。り。止。さ。く。す。水。ハ。止。ま。る。あ。る。是。ハ。さ。る。の。場。を。肩。より。立。さ。る。め。め。の。生。質。あ。る。

孟子曰。伯夷隘。柳下惠不恭。隘與不恭。君子不由也。
右。自。夷。の。奉。止。ハ。心。の。隘。と。あ。る。下。惠。が。所。行。ハ。恭。の。場。ふ。く。て。そ。ま。ら。あ。る。り。水。小。常。の。人。小。ハ。何。れ。も。上。小。位。を。つ。ね。の。君子。の。由。行。ハ。道。ふ。て。ハ。何。れ。も。す。と。あ。る。

〜の望望然
と〜て之を去將
流んんと將若
是故に諸侯辭命を善
て至者有と雖も受
不受不者ハ是亦就と
肩よ〜とせ不已
柳下惠汗君を差不
官を卑とせ不進んで
賢を隱さ不心ず其道
を以て遺佚〜て然
す厄窮〜て憫へ
不故ら〜と曰く再
ハ再ち爲我ハ我爲我
儼〜に祖禡裸裎
と雖も再焉〜と

公孫丑章句下

孟子曰天時不如地利地利不如人和

此段殊々眞理の尤大切の場あり世の中の人道の道を行ふ第一と
人道ハ重と云ふを説く本人間天を頼奉らざる事ハ聖人天地の神明の法と
て道を立てしむるは是聖人の道あり殊々天朝ハ日月國家の神明を尊戴
て頼奉る事第一義あり然れどもその理を考へ人事を尽すに依り此段の意ハ別義あり
と云ふ識見ある人の爲ふ水と論ずる段の意ハ凡そ天下を治るは又一家
を治ると同じく人の親と和とを得ず〜ハ叶へずた〜ハ天の運り
くも地の要害利不利を考へず〜ハ益あり〜春夏の時節は〜土
地不利けれハ麥米生ずるの理あり〜天の時地の利相應〜てり人は水と種藝水
ハ生熟の理あり〜と
唯人道を第一と云ふ

三里之城七里之郭環而攻之而不勝夫環而

攻之必有得天時者矣然而不勝者是天時不

如地利也

三里とハ小城郭をいふ本城とハ内なる外郭をいふ所
謂山城ハ郭つゝくを用い地城ハ郭つゝくを用い二の郭とハ城

能我を流さん哉故り
〜由自然と〜
之與借〜て自
失せ不援之を止め
て而〜て止まる援
て之を止めて而〜
て止まる者是亦去と
肩よ〜とせ不已
孟子の曰く伯夷ハ隘
柳下惠ハ不恭と
隘と不恭與ハ君子ハ
由不

公孫丑章句下

孟子の曰く天の時ハ
地の利ハ如不地の利
ハ人の和ハ如不

城非不高也池非不深也兵革非不堅利也米
粟非不多也委而去之是地利不如人和也

故曰域民不以封疆之界固國不以山谿之險
威天下不以兵革之利得道者多助失道者寡

助

右の所以〜古〜曰ハ凡そ民百姓を國の外へ出さざるやうと云ふハ民
を城の界封疆を以て〜と云ふ國を固守ハ山谿河沼を便とせずと云ふ天

威之畔所を攻故ら
へ小君子戦りハ不
有戦のハ必ず勝
孟子将小王家朝せん
と将王人を使て来て
曰く寡人就て見ゆる
が如き者あり寒疾有
以て風不可の不朝
小將の朝と視と將議
不寡人小見ゆると
得て使可乎對て曰く
不孝に對て而
疾有朝小造ると能
ハ不
明日出て東郭氏を弟
子公孫丑曰く昔者ハ

於朝 その時孟子他出の後ふとハ留主居の孟仲子としふ者使者に對て曰く昔
者王の命あり時ハ承新ふる宴御座候て朝廷造と能ハざり今日ハ
愈く候とふささく朝趨て造りやうに存候不識ふさ候へどもい
く至りうさく否候やと返答をふして使者をめぐりおき跡ふて敵の人を出
しその路くと申ふくめり孟子ハ逢ハ請くハ歸りハすして早くは朝
庭造りと申ふくめり新を采とハ火を
焼と不自由なるわとの疾といふあうあう
不得已而之景丑氏宿焉 景子曰内則父子外
則君臣人之大倫也 父子主恩君臣主敬丑見
王之敬子也未見所以敬王也
孟子ハ右孟仲子出せり慶の人ハ逢て不得已おほり大夫景丑氏の家へ之て宿
め景仲子曰く凡そ世ハ重むのハ家の内ふてハ父子の道あり家の外ふてハ君臣の
道あり人間の第一の倫ありすや子とる者ハ父の恩の厚きを主とり臣とるもの君
ハ敬せざるを主とす天地ありんあう不易の道あり今王より子を敬奉るふと
見うくらのふて子の王を敬奉るふを見ず如
何なる義と丑ハ景子自の右をいふる

辭するハ疾を以てす
今日ハ明す或者不可
あらん乎曰く昔者ハ
疾今日愈之と如何と
弔せ不ん
王人を使て疾を問
来孟仲子對て曰く昔
者王命有承新之憂有
く朝小造ると能ハ不
今病少し愈趨て朝
小造る我識不能至
や否乎故人を使て路
小要して曰く請必
らす歸と無して而
して朝小造ると
已とを得不して景

曰惡是何言也 齊人無以仁義與王言者豈以
仁義爲不美也 其心曰是何足與言仁義也云
爾則不敬 莫大乎是我非堯舜之道不敢以陳
於王前 故齊人莫如我敬王也
孟子之を聞て曰く惡は何を言出せりや我々王を敬奉る第一ありめまつ齊
の國中の人ハ仁義の道を王と語説人としてハふりそれといふ仁義の事を不美と
爲ふてめあらずあハ人ハ心の内ふては此王ハ仁義の事を語めず
と思ふらゆらゆり再ハ云ハまよふ大ハ不敬るあう我ハ今までの語るふ
堯舜の二帝ありびハ聖人の道の外ハ王の御前ハ陳るること
あるとハ齊の人ハ比ハハハ王を敬奉るものハあり

景子曰否非此之謂也 禮曰父召無諾君命召
不俟駕 固將朝也 聞王命而遂不果 宜與夫禮
若不相似然 景子又曰く否余の仁義の謂を云ふハ非先礼記ハ父を召て子に召てハ諸答する事ふく君より臣を召るハ車駕無

丑氏ふ之て宿す景子
曰く内ふハ則ハ父
子外ハ則ハ君臣
人之大倫也父子恩と
主と君臣敬と主
とす丑王之子と敬す
るを見未王を敬する
所以を見未

曰く悪は何の言を齊
人仁義を以て王與言
者無豈仁義を以て美
ふ不と爲其心小曰
くは何ぞ與小仁義と
言小足と再云バ則ハ
ち不敬是く大も
ハ莫我老舜之道小非

ざとハ敢て以て王の
前小陳せ不故のし
小齊人我王を敬する
小如ハ莫

景子曰く百此を謂小
非す禮小曰く父召バ
諸すると無君命
て召バ尊を俟不固
將小朝せんと將王
命を聞て遂小果さ不
宜く夫禮與相似不
若く然

曰く豈是を謂ん興曾
子の曰く晉楚之富及
可く不彼ハ其富と
以て我ハ吾仁と

事の備をも俟ずして徒らに造るは是れ礼の重きものなり
固く朝せんと存しては王の命令を聞て行を果すハ夫れ礼の重き
ものなり其の理相似ぞ
曰豈謂是與曾子曰晉楚之富不
可及也彼以其富我以吾仁彼以其爵我以吾
義吾何嫌乎哉夫豈不義而曾子言之是或一
道也天下有達尊三爵一齒一德一朝廷莫如
爵鄉黨莫如齒輔世長民莫如德惡得有其一
以慢其二哉

孟子のさひて對て曰く若重むのを以て比へバ豈に是式を謂
るふハ及べのす然とも彼ハ富を以てす我ハ仁とし徳は彼諸侯の
官爵はとバ我ハ義としくる重きを抱く吾何ぞ嫌むんやと此詞曾子の不義ふる
心知く言べけんや是も又一ツの道あるそハ天下の間ハ三ツの尊さめものあり一ツハ
ハ官爵ニツハハ齒齡三ツハ徳義ある朝廷政道の場ハ官爵は如ものふ一ツハ
黨の出會ハ齒齡を社とむるも一ツハ國天下を治め万民をめぐむ世の困を
助け人ハ長るハ徳義起るものふ一ツハ悪いんや齊王爵の一ツを以て我ハ徳

の重と齒齡の高きことを持つるをヤ一ツを以て
その二ツを慢むるの理ありんや
故將大有爲之君必有所不召之臣欲有謀焉
則就之其尊德樂道不如是不足與有爲也

そハ故ハ大なる望を爲と將の君ハ自由ハ召不所との徳ある賢人を尊敬せずんハ
ゆるぐのすすく妙ある講を施さんと欲ハ則ハちさあさる其賢人ハ就從の
ふて聞へぬの振舞とハ哀高遠との儀ふてハささくさふに君さ
徳を尊む道なの一むのさハバとくも用ひ行ふと行届のく一與小爲
ふ足さるハ故湯之於伊尹學焉而後臣之故不勞
而王桓公之於管仲學焉而後臣之故不勞而

覇右の記ハ昔者湯王の伊尹を召るは始ハ師範の位ハ天下
定まると後臣の位ハ列ある桓公の管仲を召るはも同さる之ハ依て湯ハ王
天照皇の五部の賢人を用ふるもささく天朝
今天下地醜德齊莫能相尚無他好臣其所教

莫他無其教ゆゑ所と臣と其教と受る所と臣ととすと好まず不し湯の伊尹於る桓公之管仲於則ハ敢て召不管仲且猶召可の不而と況んや管仲爲不者手陳臻問曰く前日齊小於て王兼金一百と餓而受不末於七十鎰と餓而而一受前日之受不是あるハ則ハ

日而三失伍則去之否乎曰不待三平陸ハ齊の邑にして其の領主の大夫と然則子之失伍也亦多矣凶年饑歲子之民老羸轉於溝壑壯者散而之四方者幾千人矣曰此非距心之所得爲也信小きやうのゆるぐ一然ある子ハ五と失ふの理も多くとく子細ハ饑歲凶則必爲之求牧與芻矣求牧與芻而不得則反諸其人乎抑亦立而視其死與曰此則距心之罪也孟子の曰く子ハ今ある人の牛羊を

今日之受るハ非し今日之受る是あるハ則ち前日之受不ハ非し夫子必ず一小此小居ん孟子の曰く皆是也宋小在當て子將小遠く行と有んと將行者ハ必ず不し慙むけと以て辭小曰く慙むけ小餓ると子何爲と受不薛小在小當て子戒心有辭一曰く戒と聞故うゆ小兵の爲小之と餓ると子何爲と受不ん

他日見於王曰王之爲都者臣知五人焉知其罪者惟孔距心爲王誦之王曰此則寡人之罪也他日孟子の御話ハ王の都城を爲る大夫小ハ不佞五人を知り自の罪を孟子謂軻鼃曰子之辭靈丘而請士師似也爲其可以言也今既數月矣未可以言與孟子齊の大夫軻鼃といふ人ハ謂小ハ吾子靈丘の役を辭退ゆつて士師の官を請受ら

若齊小於人ハ則ハ
未と處する有未處
する無之と餽る是
之を貸するも
心ぞ君子ハ
と以て取可と有ん乎
孟子平陸ハ之て其大
夫ハ謂く曰く子之戰
と持の士一日ハ
三とび伍と失ハ
則ハち之と去んヤ
否乎曰く三と待不
然ハ則ハち子の伍と
失ふも亦多
年饑歳ハ子之民老
麻ハ溝陸ハ轉ハ

為咄龍諫於王而不用致為臣而去齊人曰所以
為咄龍則善矣所以自為則吾不知也

公都子以告曰吾聞之也有官守者不得其職
則去有言責者不得其言則去我無官守我無

言責也則吾進退豈不綽綽然有餘裕哉

○孟子為卿於齊出弔於滕王使蓋大夫王驩

為輔行王驩朝暮見及齊滕之路未嘗與之言
行事也

公孫丑曰齊卿之位不為小矣齊滕之路不為
近矣反之而未嘗與言行事何也曰夫既或治

之予何言哉

○孟子自齊葬於魯反於齊止於嬴充虞請曰

前日不知虞之不肖使虞敦匠事嚴虞不敢請



者ハ散ハて四方
之者幾んと千人曰
此距心之得て為所
非ず

曰く今人之牛羊と受
て而ハて之と為
之と牧する者有則ハ
之必らず之と為小牧
と勿與と求人牧と
與と求めて而ハ

朝暮見及齊滕之路未嘗與之言行事何也曰夫既或治之予何言哉

孟子自齊葬於魯反於齊止於嬴充虞請曰前日不知虞之不肖使虞敦匠事嚴虞不敢請

得不則ハチ諸を其人
小反さん乎抑く亦
立て其死と視與曰く
此則ハチ距心之罪也
他日王と見曰く王之
都を爲る者臣五人と
知其罪と知者惟孔距
心王の爲ふ之と誦す
王の曰く此則ハチ寡
人之罪也
孟子曰く此謂く曰く
子之靈丘と辭して
士師と請ハ似て其
以て言可ら爲あつ今
既小数月未以て言可
の未與

蟄龍王と諫め而
人用らと不臣爲と致
して而して去齊
人曰く蟄龍が爲ふす
る所以ハ則ち善自の
ら爲ふする所以ハ則
ち吾知不
公都子以て告ぐ曰く
吾之を聞く官守有者
ハ其職と得不とハ則
ハち去る言責有者ハ
其言と得不とハ則ハ
ち去我して官守無く
我して言責無く則ハ
ハち吾進退豈綽綽然
と一餘裕有不ん

今願竊有請也木若以美然
孟子曰く齊の國への時齊の領分贏とい宿止するもの門人未嘗請問て曰く前
日ハ不肖ももてて棺を匠事ふとの取敢め仰せ付らる其節ハ事嚴く敢て御請
申上る棺樽の水ハ以て美々布やうの存る如何とあつ

曰古者棺樽無度中古棺七寸樽稱之自天子
達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心

不得不可以爲悅無財不可以爲悅
孟子曰く天子の庶人まで棺の事直觀の美爲ふてハ誠人の
孝行の心も心も

得之爲有財古之人皆用之吾何爲獨不然
孟子曰く天子の庶人まで棺の事直觀の美爲ふてハ誠人の
孝行の心も心も

且比化者無使士親膚於人心獨無忤乎吾聞
之也君子不以天下儉其親
孟子曰く比化者の比は膚は土
小人ハのく別も身を持君子ハ天下のもの何めて親の爲ハ物を儉い
る

沈同以其私問曰燕可伐與孟子曰可子噲
不得與人燕子之不得受燕於子噲有仕於此
而子悅之不告於王而私與之吾子之祿爵夫
士也亦無王命而私受之於子則可乎何以異

於是
孟子曰く齊の臣下沈同といふ者私竊して孟子へ問く曰く今燕の國大亂して大夫
の子ハ君の嗣をうぐんと上下相和ぐ事ハ今燕無道なる振舞ふ

於是
孟子曰く齊の臣下沈同といふ者私竊して孟子へ問く曰く今燕の國大亂して大夫
の子ハ君の嗣をうぐんと上下相和ぐ事ハ今燕無道なる振舞ふ

孟子齊小卿と爲出く
滕小甲す王蓋大夫王
驪と使く輔行と爲王
驪朝暮小見ゆ齊滕之
路と及る小未と嘗く
之與行事と言未
公孫丑曰く齊卿之位
小と爲不齊滕之
路近と爲不之と
及る小未と嘗く與小
行事と言未ハ何と曰
く夫既小之と治むる
と或子何と言哉
孟子齊小卿魯小華む
る齊小及つて廉小止

んとす大夫子之弁吉小巧ふ一と曰くいふ一ハ賢徳の人小位を讓一として例
を引き明し辨小讓て子小傳さる一としむるのる小國民屈服せざる一して大亂を引
出せり孟子説て曰くたるとくバは官の人小のん小吾子も一王小告す一
私のものひひて之小吾子の後爵を與人小王の命令もふて可ふるんや燕の乱何
ぞもの理と異 齊人伐燕或問曰勸齊伐燕有諸曰未
也沈同問燕可伐與吾應之曰可彼然而伐之
也彼如曰孰可以伐之則將應之曰爲天吏則
可以伐之今有殺人者或問之曰人可殺與則
將應之曰可彼如曰孰可以殺之則將應之曰
爲士師則可以殺之今以燕伐燕何爲勸之哉
右の後齊遠は燕を伐一あつて或人孟子小問て曰く先生齊小勸く燕を伐一
とて沙汰あつての事とあつて孟子御答いさるる事と一前日沈同の問
小燕の如き不義の乱ハ伐て可ふるんやと問ひ一しその理伐て可ふるんやと答
彼ののち小水を伐一あつて彼も一孰も伐て可ふと問ハ則ち余が對もあつて天

ちる元虞請く曰く前
日虞之不肖と知不虞
小匠事と教せ使む嚴
ふと虞敢て請不今願
ハくハ竊小請と有木
ハ以てと美ふるが若
く然

吏ハバ伐一といふこととあつて武王大徳を以て紂王の惡逆を討て民の
苦しむを救ふは是天の吏といふものなりハ然らずたるとハ人を殺せ一者
ん人小くめて此者ハ殺すべし罪あつてやと問ひ一殺すべしと答へ一も
と誰うさつての罪を正さんと問ひ士師役のもの正すべしと答へ一今燕小
を伐てさると何爲も水も勸めん哉
○燕人畔王曰吾甚慙於孟子
齊小燕を破て後燕の人小くまて大子を立て齊小畔
けり是は於て齊王との外孟子小對一して慙りしもの

曰く古者棺槨度無
中古棺と寸槨之小稱
天子自庶人小達す直
小觀美と爲小非す然
一後小人心と盡
す

陳賈曰王無患焉王自以爲與周公孰仁且智
王曰惡是何言也曰周公使管叔監殷管叔以
殷畔知而使之是不仁也不知而使之是不智
也仁智周公未之盡也而况於王乎賈請見而

得不ハ以く悦まむと
爲可のく不財無とハ
以く悦まむと爲可の

解之 大夫陳賈曰く王何ゆ孟子ハ患ふ一王の心小古への周公と御
自身とハ仁智孰り多うと思ふや王の曰く惡何一ハの甲の言を出すや

今人を殺す者有
或人之と問く人殺す
可く與と目則ち將
之小應へて曰く可く
彼如孰り以く之と殺
す可く」と曰バ則ハ
士師爲るハ則ハち以
て之と殺す可く今
燕と以て燕と伐何爲
ぞ之と勤めん哉
燕人畔く王の曰く吾
甚とて孟子小慙
陳賈曰く王患ふる
無のれ王自のり以て
周公與孰とる仁且智

子以萬鍾使諸大夫國人皆有所矜式子盍爲
我言之時子因陳子而以告孟子陳子以時子
之言告孟子他日王の時子といふ者ハ我ハ心願とい國の中
て大夫ふくび小國人ハ矜式を教へ示さばんと欲す孟子ハ我爲ふ之を傳言する
やとこおれ依て時子より孟子の門人陳子ハ傳語けをバまて陳子より孟子へ告ぐ
うける一萬鍾ハ六万四千斛
孟子曰然夫時子惡知其不可也如使子欲富
辭十萬而受萬是爲欲富乎九士とる者道を行らんとして欲
の道行はば留はるべき理より更ふる孟子の齊を去るもその義同し
季孫曰異哉子叔疑使已爲政不用則亦已矣

と爲王の曰く愚
是何の言ぞ曰く周公
管叔を使般と監を管
叔般と以て畔く知て
之を使むるハ是不仁
なり知不して之を
使むるハ是不智なり
仁智周公未之盡
不而るを況や王小於
て乎賈誼く見く而
て之と解ん
孟子小見へく同て曰
周公ハ何人ぞ曰く
古への聖人也曰
管叔を以て般を
管叔般と以て畔く

又使其子弟爲卿人亦孰不欲富貴而獨於富
貴之中有私龍斷焉孟子昔を引いて論の季孫といふ人の子
叔疑ハ管叔を引いて論の季孫といふ人の子
已大夫と名をバ政道をひきとり君小用ひりれんとバ官祿を子や弟へゆづり
めその身ハ隱居をなすくありぞく凡そ人誰り富貴を欲さん然とも子叔
疑ハ如きハ富貴の中ハ龍斷を爲すなり龍斷といハ壘ハ壘土を盛上げて
所て高きものなり此上を諸方を見渡ると其所以をひきとり
古之爲市者以其所有易其所無者有司者治
之耳有賤丈夫焉必求龍斷而登之以左右望
而罔市利人皆以爲賤故從而征之征商自此
賤丈夫始矣古の市街の買賣とひきくる此ハ有もの他無ものを取
るて便利をとり兩方の人土地不自由なく無非帯の
爲し有ものを見く治正を爲すなり然その中に賤き丈夫ありてその龍斷を
かきとて高き左右四方をのぞいて市街の利をひきとるに罔もんとて手ぬける
なり
孟子二

我中國小... 孟子曰... 諸大夫國人... 式... 子益... 孟時... 孟子... 子惡... 知人... 欲使... 是為... 季孫曰...

子所欲也不遇故去豈子所欲哉子不得已也

子三宿而出晝於子心猶以為速王庶幾改之

王如改諸則必反予夫出晝而王不予追也子

然後浩然有歸志子雖然豈舍王哉王由足用

為善王如用子則豈徒齊民安天下之民舉安

王庶幾改之予曰望之

予豈若是小丈夫然哉諫於其君而不受則怒

悻悻然見於其面去則窮日之力而後宿哉

尹士聞之曰士誠小人也

孟子去齊克虞路問曰夫子若有不豫色然

前日虞聞諸夫子曰君子不怨天不尤人

曰彼一時此一時也

子叔疑已... 用不... 其子弟... 人亦執... 不人獨... 龍所... 古之市... 所之以... 者者... 治者... 市之利... 賤之為... 之之...

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

五百年必有王者興其間必有名世者由周而

來七百有餘歲矣以其數則過矣以其時考之

則可矣如何となれば古今を考ふるに大凡三百年を経るも王道仁義の

夫天未欲平治天下也如欲平治天下當今之

世舍我其誰也吾何為不豫哉我思天數未天下を平ら

○孟子去齊居休公孫丑問曰仕而不受祿古

之道乎齊を去て休といふは居のふ時公孫丑の問なり

曰非也於崇吾得見王退而有去志不欲變故

不受也繼而有師命不可以請久於齊非我志

也孟子對ふさやの理は非也而も子細あり崇にて王に見る時已に徳を好

滕文公章句上

滕文公為世子將之楚過宋而見孟子

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

孟子齊を去て晝宿

夫道一而已矣

文公楚子反ついで又孟子立つては孟子の性善の疑ひをひらきゆへに孟子依て曰く

道ハ一筋のものにて疑

成覲謂齊景公曰彼丈夫也我丈夫也吾何畏

彼哉顏淵曰舜何人也子何人も有爲者亦若

是公明儀曰文王我師也周公豈欺我哉

君子の道小人の道として天理に於てハ昔成覲といふの齊の景公は謂ハ彼聖賢も丈夫なり我も又丈夫なり吾何ぞ彼を畏んや顔淵も又曰く古への舜帝も何人なりんや人ハ異なりバ予としても何人なりんや人として世にありて何を

志ハ一にしてハ亦舜の如く有るは公明儀もまた曰く文王ハ我師ともいふべし

聖人周公の言を味ハひことを行ふは周公我を欺むべけんやと

今滕絶長補短將五十里也猶可以爲善國書

曰若藥不瞑眩厥疾不瘳

今滕の國長短を絶補バ大抵五十里四方なりん然バ道を用るに善國なり

小太三宿一て而
て後小畫を出是何ぞ
滯滯なる士ハ則ち茲
悦こび不
高子以て告ぐ曰く夫
尹士悪くんぞ予を知
ん哉千里して王
見ゆ是予が欲する所
也遇不が故に太豈予
が欲する所なりん哉
予已ことを得不也
予三宿一て畫を出
予が心小於て猶以て
速りと爲王庶幾くハ
之を改めん王如諸と
改めバ則ち必ぞ予と

反さん夫畫を出て而
一七王予と追不自然
一七後小浩然として
歸志有予然と雖ども
豈王と舍ん哉王由用
て善を爲小足王如予
を用ひハ則ち豈徒齊
の民安うん天下之
民舉安一主庶幾くハ
之を改めん予日小
之を望む

予豈是小丈夫の若然
ん哉其君我諫而
て受不ハ則ち怒悻悻
然として其面小見ハ
る太バ則ち日之力と

書經にも曰く凡そ蒸といふ者ハ病瘵眩暈にさくめあるものと云ふて瘵と云ふ國を
立直一政道をあつむるハ剛毅目ざちて嚴く法令を立て尋常の懦弱心に克
つるんハ能
す

○滕定公薨世子謂然友曰昔者孟子嘗與我

言於宋於心終不忘今也不幸至於大故吾欲

使子問於孟子然後行事

滕の定公薨去つての世子文公その
臣然友は仰るるに孟子嘗く我と

末の地にて御言談のとき今心に忘る今や我不幸にして大故及ぬ吾子
と以て孟子へたつて問その後行事を行んとならん父母の死するを大故といふ

然友之鄒問於孟子孟子曰不亦善乎親喪固

所自盡也曾子曰生事之以禮死葬之以禮祭

之以禮可謂孝矣諸侯之禮吾未之學也雖然

吾嘗聞之矣三年之喪齊疏之服飭粥之食自

窮而後宿せん哉
尹士之聞て曰く士
誠小人也

孟子齊を去充虞路小
同く曰く夫子不豫の
色有る若く然る前日
虞請て夫子小聞曰く
君子天を怨く不人を
尤め不

曰く彼も一時なり
此も一時也
五百年ふて必りバ
王者有て興る其間必
らバ世小名ある者有
周由而來七百有餘歳
其數我以てせバ則ち

天子達於庶人。三代共之。

天子の親の喪ハ固より自力を尽さざるものなり吾先師曾子ののひハ親のこ
の世に存生ののちも死去ののちも又とひとむしむの祭りの礼を用てつゝつとハ
父母孝行の第一なりとの仰なり諸侯の礼ハ吾未だ學びざる事なり然ども
つとつとあり三年の喪中の間齊疏の衣服と飢餓の食事とハ天子より庶人
までおのづから達する礼とて三代
の聖人共其通るなり

然友反命定爲三年之喪父兄百官皆不欲曰

吾宗國魯先君莫之行吾先君亦莫之行也至

於子之身而反之不可且志曰喪祭從先祖曰

吾有所受之也

然友その旨趣を反命あげ夫より定まりて三年の喪中
を爲のふとさば一家中の者ども百の官人父兄のとも
う不敬して曰く吾宗主の家なる禮の先君もかくの如く行ひ
もさる之を行ハば御身に至て之を反くハ不可なり且く舊例の志録も喪と祭の
事ハ先祖の例に從べしとあり世子もつとつと
此とびの一大事ハ教を受へてありてなりとぞ

謂然友曰吾他日未嘗學問好馳馬試劍今也

父兄百官不我足也恐其不能盡於大事子爲

我問孟子然友復之鄉問孟子

世子然友の語て曰く吾他日未嘗學問を爲す馬を馳せたり劍術を試みるの
ゆへ今にわたりても父兄百官の輩も我爲とて氣不足とせ居恐くハ此度の大事
と盡るを能はず何とぞ又孟子へ御問
申へしとありて復然友郷之とぞ

孟子曰然不可以他求者也孔子曰君薨聽於

冢宰歆粥面深墨卽位而哭百官有司莫敢不

哀先之也上有好者下必有甚焉者矣君子之

德風也小人之德也

子孟子の曰く然るべき事ハ自ら事して他人は求むる事ならずは聖人も
仰せらるる今日君の薨去あるハ万幸ハ冢宰小寄託して君ハたゞ喪を務むる自

過し其時を以て
之を考ぐふとバ則ち
可なり

夫天未と天下と平治
せんと欲せ未如天下
我平治するを欲せバ
當今之世我を舍て其
誰吾何爲ぞ不豫せん
哉

孟子齊を去て休小居
る公孫丑問て曰く仕
へて祿を受不ハ古よ
し之道乎

曰く非也崇小於て吾
王小見を得て退て
本志より有變ざるを

欲せ不故ゆへ小受不也繼で師命有以て請可く不齊久一非す

滕文公章句上

滕の文公世子爲一將小楚小之んと將宋を過て孟子小見ゆ

孟子性ハ善と道言必りハ堯舜を稱せ

世子楚自反る復孟子小見ゆ孟子の曰く世子吾言を疑ぐ乎夫道ハ一而已

成觀齊の景公小謂く曰く彼も丈夫也我も

丈夫也我何ぞ彼を畏ん哉顔淵の曰く舜何人ぞ予何人を爲すと有者亦是の若し公明儀曰く文王我師也周公豈我を欺むらん哉今滕長き茲絶て短らさを補なり將小五里を補なりと將猶以て善國と爲可し書小曰く若蔡顯眩せ不バ厥疾瘳不滕の定公堯也世子然友小謂く曰く昔者孟子嘗く我與宋小言心

孟子

然と面澁墨その位一即て哭のくなり百官有司の者これを見て哀まざるものなりこれ我身を徴し先んぞ見ざるゆへなりとて上より人何ぞ御好くめとバ下なるものハ必し倍すて好むのなりこれ君子の徳ハ風なり小人の徳ハ州なりといふ風吹ときハ州をむくといふ心なり

然友反命世子曰然誠在我五月居廬未有命戒百官族人可謂曰知及至葬四方來觀之

顔色之戚哭泣之哀弔者大悦

然友又そのむら反命あげんは世子の曰く誠し身の在るなりとて五月廬にやどり諸事の命戒もせて勤むものなりハ百官族人可もくさ曰く徳を知る人なりとぞ謂曰く葬送して四方より來觀て文公の顔色の戚を見け哭泣の体をもて大悦じたりと

○滕文公問爲國孟子曰民事不可緩也詩云晝爾于茅宵爾索綯亟其乘屋其始播百穀

文公政道の御問なり孟子御答に宛てて民事を治るハ政道を緩べり詩經にも晝ハ于て茅をかりたり宵ハ索を編て力を出し亟く屋つくろひをなしてきて

來春の始め小ハさ穀物の種をまか付る手當をさるべしとあり

民之爲道也有恒産者有恒心無恒産者無恒心苟無恒心放辟邪侈無不爲已及陷乎罪然後從而刑之是罔民也焉有仁人在位罔民而可爲也是故賢君必恭儉禮下取於民有制

陽虎曰爲富不仁矣爲仁不富矣

陽虎も悪人なるともいひ一車あり富貴なると思ふハ仁心はてきぬものなりと云ふ詞の主意ハたぐへども其理りあり人を仁さんと思ひ欲を放つべし

夏后氏五十而貢殷人七十而助周人百畝而徹其實皆什一也徹者徹也助者藉也

小於終忘不令不幸
幸して大故小至る
吾子使く孟子小問然
て後事を行な
りんと欲せ

然友郷小之く孟子問
孟子の曰く亦善く
不乎親の喪固小自り
り盡そ所なり曾子の
曰く生小ハ之し事小
礼を以て死も之を
葬小礼を以て之を
祭も礼を以て之を謂
可諸侯之礼吾未之
學び未然りと雖も吾
嘗て之を聞て三年之

喪齊疏之服軒粥之食
天子自庶人小遠も三
代之共一也
然友反命定て三年
之喪之爲父兄百官皆
欲せ不曰く吾宗國魯
の先君之を行なふこ
と莫吾先君亦之を行
なふこと莫子之身小
至て而して之を反も
不可なり且志し曰喪
祭先祖小從ぐ曰く
吾之を受る所有
然友小謂て曰く吾他
日未嘗て學問せ不好
んで馬と馳劔を試今

夏の後の代ハ一人一人ハ五十畝を受て年貢をせしむる殷の代ハ七十畝なり周
ハ始て百畝よりなりぬ其年貢の法ハ實ハ十分一を上へとるなり徹とハ均く天下に
通徹との心なり助とハ民の力
を藉て公用の助とせしむる心なり

龍子曰治地莫善於助莫不善於貢貢者校數

歲之中以爲常樂歲粒米狼戾多取之而不爲

虐則寡取之凶年糞其田而不足則必取盈焉

爲民父母使民盼盼然將終歲勤動不得以養

其父母又稱貸而益之使老穉轉乎溝壑惡在

其爲民父母也古への賢人の龍子といふ人論りて曰く田地の法ハ助を

くの校考をなして定まりの定數をなせり依てその流るハめて民をくるはひる
なりたるとハ祭歳ハ一粒米よく登て狼戾上へ多く取上ても民の虐るる時常の
定めとバ取ところ寡の理ハあつるなり凶年にハ田ハ糞ひ養てくも民ども定ま
るやと然とも常の定めとバ取るやとハ盈満取るなり依て民ども盼盼然らる

夫世祿滕固行之矣己れ行なうとも助法いす行なうとも助
の法ハ下への詩云兩我公田遂及我私惟助爲有公
田由此觀之雖周亦助也詩經も民ども上を親く戴ひて詩を

我君の田地よく實のるハ一ありはあのおのめく我私の田地も及べりとあり
惟助の法ハ公田別有とく此由て觀ぐは周も助法を用ひりなり

設爲庠序學校以教之庠者養也校者教也序

者射也夏曰校殷曰序周曰庠學則三代共之

皆所以明人倫也人倫明於上小民親於下

古ハハ民の産業ほどよく定めし學校を設て道をあめり教させしむる夏の代ハ
學校の名を校と申せり校ハ教といふ字の義理なり殷の代ハ序と名づく射の字義

父兄百官我小足不恐
くハ其大事を盡
こと能ハ不子我爲小
孟子小問然友復郷小
之孟子小問

孟子の曰く然り以て
他小求む可く不者
也孔子曰ハく君覺
て衆幸小聽粥を飲
面て濃墨なる位小即
て而一て哭也百官
有司敢く哀不と莫之
小先さる也上小好む
者有バ下必せ焉
甚さる者有君子之
徳ハ風小人之徳ハ草

草小之小風之上とバ
必りせ僣是世子小在
然友及命也世子曰く
然ハ是誠小我小在五
月廬小君未命戒有未
百官族人可謂て知と
曰葬むる小至さ小及
く四方來く之を觀る
顔色之戚哭泣之哀
甲者大悦也
滕の文公國を爲むる
を問孟子の曰く民の
事ハ緩そ可から不詩
小云畫ハ再于て孝り
れ宵ハ再于索綯亟や
り小其屋小乘其始め

て曰ハ君子の学ありて之を習とを主意とハ周ハ庠と名づく庠ハ養のとけりて
老るるを養育を以て義とハ学問の法ハ三代どもに同トミさるる皆人の倫を明らに
その法のより上ハ人倫明らなるハ
下道ありてよくあるハ

有王者起必來取法是爲王者師也

滕の國今たとひ偏小して天下之王とハバともかく仁
政を行なひのハ誠王とハ人も來て法を師とせ

詩曰周雖舊邦其命維新文王之謂也子力行

之亦以新子之國詩經周八年舊邦之謂也文王至仁政王道

使畢戰問井地孟子曰子之君將

行仁政選擇而使子子必勉之夫仁政必自經

界始經界不正井地不均穀祿不平是故暴君

汙吏必慢其經界經界既正分田制祿可坐而

定也

多くの内選擇一とく必らば聞得て勉むべし夫仁政、經界を第一と
以經界正一とくされバ井田の法も均一とあり今子を使とて來せり
汙吏小吏ハ必ぞ經界慢くなり經界正一とくされバ心易らるなり
田地を分る穀祿を制するも坐せり

夫滕壤地褊小將爲君子焉將爲野人焉無君

子莫治野人無野人莫養君子今滕の國褊小なりとりくと
も君子とありて上つて

野人となして下にならば人々備りあるハ固
より君子ハ下を治め下ハ上と養ふべきものなり

請野九一而助國中什一使自賦

ある用場無用場のあり正くならしめて什一以下必有圭田圭
分の一の理一して上へ賦税をとりたりとを卿以下必有圭田圭

田五十畝卿大夫以下ハ先祖を祭る圭田
地といふものあり各五十畝あり餘夫二十五畝一人
の定

めハ右百畝して大抵五人八人までをこころを養ふなり然るに兄弟多く恒産
なきハ十六の歳より則ち田地二十五畝をくくるとなり三十の歳よりのうちに室を建て

て百穀を播こさん
民之道爲恒の産有者
ハ恒の心有恒の産無
者ハ恒の心無苟小恒
の心無レバ放辟邪侈
爲不こと無已罪小陷
りる小及て然して
後ち從て之を刑也是
民と罔ゆるこ焉んぞ
仁人位小在て民と罔
て爲可こと有人
是故小賢君必恭儉な
り下小礼——民小取
る小制有
陽虎曰く富を爲ハ仁
を不仁と爲ハ富不

夏后氏五十小——
貢之般人七十に
て助之周人百畝に
て徹之其實皆什が一
也徹者徹也助者藉也
龍子曰く地を治むる
助より善ハ莫——貢
於善く不るハ莫貢
者數歲之中を校ぐ
以て常と爲樂歲ハ粒
米復戾多く之を取て
而——て虐を爲不
則ち寡なく之を取
凶年ハ其田小糞りひ
而——て足不も則ち
必ず取盈民の父母と

後ハ田地百畝 死徒無出郷 郷田同井 出入相友 守望
相助 疾病相扶持 則百姓親睦

井田の法ハ一里四方に——て此田地の數ハ九百畝あり夫を九ツに分て
一カハ百畝ツツなり與中を公田の百畝と——て八軒——てこれを作て公
用とせり八軒の百畝ハ私田地なり中ハ公の田地なり
公用の事畢て私田地に及なりこと野人の別あり所以なり

此其大略也若夫潤澤之則在君與子矣
右の邊ハ大略なり若夫これ潤澤よふ一惠くや
——事ハ子と君とにかへる儀——むる

方里而井井九百畝 其中爲公田 八家皆私百

畝 同養公田 公事畢然後敢治私事 所以別野

人也 井田の法ハ一里四方に——て此田地の數ハ九百畝あり夫を九ツに分て

此其大略也若夫潤澤之則在君與子矣

○有爲神農之言者許行自楚之滕踵門而告
文公曰遠方之人聞君行仁政願受一塵而爲
氓文公與之處其徒數十人皆衣褐捆屨織席

以爲食 神農も——めて黍稷を作つ依て農桑の事を家のあり——とせり者
なり楚より滕の國へ之て文公へ告るハ君の仁心遠方までも聞ゆ何とぞ此國の氓
となりて一ツの塵を申受——となり文公せらるる生處を與りふその門徒數十人
皆褐の衣履——て屨を捆

陳良之徒陳相與其弟辛負耒耜而自宋之滕

曰聞君行聖人之政是亦聖人也願爲聖人氓

楚の大儒に陳良とりける人の門人陳相陳辛とて兄弟ありける黍稷を興て宋よ
り滕の國へ之て曰く君ハ聖人の政務を行ふのみ君もまた聖人なり願ハ聖人氓
となりて

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉陳

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉陳

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉陳

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉陳

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉陳

爲て民小勝然... 使將小終威勸の勳て... 以て其父母之養を... こと得ると將又種實... て之を益老稚を使... 輕小轉上悪くんぞ其... 民の父母爲小在りん... 夫祿を世小するハ勝... 固より之を行さる... 詩小云く我公田に雨... して迷小我私小及... 小惟助公田有と爲此... 小由て之を觀れば周... と雖ども亦助あり... 庠序學校を設け爲... て以て之を教ゆ庠者

相見孟子道許行之言曰滕君則誠賢君也雖
然未聞道也賢者與民並耕而食饗殮而治今
也滕有倉廩府庫則是厲民而以自養也惡得
賢陳相と云ふは許行は達てその道を闢大悦で夫より學問を棄るる孟子小見て許
賢行の言を述べて曰く滕の君ハ誠賢君なるとも未だ道を聞ぜんとく賢徳の君ハ民
と共に並び耕して共に朝饗夕殮をも炊て風を治といふことありあらずに今滕ハ
米倉廩金府庫内一充滿せりものとハ民を厲めて自ら養ふのあらずと悪り賢る
といふは孟子と云ふは孟子君臣と
分の説を書きりんとするものなり

孟子曰許子必種粟而後食乎曰然許子必織
布而後衣乎曰否許子衣褐許子冠乎曰冠曰
奚冠曰冠素曰自織之與曰否以粟易之曰許
子奚爲不自織曰害於耕曰許子以釜餽饗以

養ふ也校者教也庠
者射也夏小校と曰般
小序と曰周小庠と曰
學ハ則ち三代之を共
小也皆人倫を明りに
する所以なり人倫上
小明小して小民下
小親しむ
王者起ること有ハ必
うに來て法と取ん是
を王者の師と爲
詩曰周舊邦と雖ども
其命維新なり文王之
謂也子カめて之を行
ハ亦以て子之國を
新小せん

鐵耕乎曰然自爲之與曰否以粟易之
孟子の曰く許子小も定て粟を種て食するの曰く然るなりと問許子ハ必布を織て
衣を織て穿るる曰く否許子ハ褐を衣する又問然ハ許子ハ冠を穿るる曰く冠を
穿るる又問美を冠とせざるや曰く素冠の冠と云ふは麻の冠を織りて
く否也作ところの粟を以て易する又問て曰く何ゆへに自ら織ざるや曰く耕作に
當るる又詰めて曰く許子ハ食物を金として鬻販するの事と云ふは蒸や田地ハ鐵の道具
耕せるとにや替て曰く然るなり問て曰く自らその事を爲とや曰く否也耕作の一筋と
以ててそれにて粟を
以ててそれにて粟を

以粟易械器者不爲厲陶冶陶冶亦以其械器
易粟者豈爲厲農夫哉且許子何不爲陶冶舍
皆取諸其宮中而用之何爲紛紛然與百工交
易何許子之不憚煩曰百工之事固不可耕且
爲也
孟子の曰くは許子ハ耕作の事にして金にして鬻販するの事と云ふは蒸や田地ハ鐵の道具
耕せるとにや替て曰く然るなり問て曰く自らその事を爲とや曰く否也耕作の一筋と
以ててそれにて粟を
以ててそれにて粟を

九百畝其中を公田と爲八家皆百畝を私と同一く公田を養ふ公事畢つて然して後小敢て私の事を治む野人小別所以也此其大畧也若夫之潤澤するハ則ち君子與小在神農之言と爲そ者許行有楚自滕小之て門小踵り文公小告く曰く遠方之人君仁政を行ふと聞願りくハ一塵と受て而して垆爲ん文公之小處を

國のやん中も鳥の足跡あるやどなり時の帝唐堯を憂ひ賢徳ありとて舜を引奉て仁徳を以て敷治しむ舜さ賢人とよばるく益を引あげて火を掌どりし則山澤を然して是を焚きしにことよみ禽獸次第にささくり逃さくし海ハ水道を掌どり九河の方よりり疏し濟水の川をも論て海のうへに注流を書し注さるる如くそれより海に注さ汝水漢水をも決て淮泗の方へ排き夫より江に長をいりてかくるささきしゆへ八ヶ年外よりて吾りの門を過るといれども見さるにいて入て對面も能さるし中く人を治る者ハ耕作ごと欲といひゆるり得るこゝ

后稷教民稼穡樹藝五穀五穀熟而民人育人之有道也飽食煖衣逸居而無教則近於禽獸聖人有憂之使契爲司徒教以人倫父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信放勳曰勞之來之匡之直之輔之翼之使自得之又從而振德之聖人之憂民如此而暇耕乎

五穀ハ后稷つり

與ふ其徒數十人皆禡と衣履と拊席と織以て食と爲陳良之徒陳相其弟辛與未耜と肩未自滕小之曰く君聖人之政とて行ふと聞く長亦聖人也願ハくハ聖人の氓と爲ん陳相許行と見て大悦ぶ盡く其学を棄て而して学ぶ陳相孟子小見へて許行之言と道曰く滕の君ハ則ち誠小賢君也然と雖ども未と道と聞

物十分ハ飽く衣服暖のふさるるのすくは逸居するのうみく教といふ事ふけとハ則ち禽獸の心小近くはさすしことあるそのむのし君臣の礼もふく夫婦道を守ることふく誠小淺問し事といひハ聖人のめく憂ひ契といひ賢人といひさの司徒の官とく学問の道人の倫と教させるか父子の親愛君臣の義理夫婦の分別長上幼少の序朋友の信の五つと教させるか放勳ハ抑も我天下と治るハ万民と勞を來服する者とバささと懐け邪まらるハ正直し人と輔くささと立しめ力と翼て道を行ふかむ自各その性つさ小背ぬも小得さしめ又さうへと振恵のいとさる聖人のやうふ民の事を憂ひも中く耕作する暇あるんや

堯以不得舜爲己憂舜以不得禹臯陶爲己憂夫以百畝之不易爲己憂者農夫也

堯帝ハ聖人舜を得るハぬ内ハ何とぞ徳のう人を民の爲め求めりんと人心憂小思しめ舜ハ禹さび小臯陶の元と得さるとさハ憂ふしめりしもの百畝の田地の出来不出來ふと易さうの事と憂とするハ農人のことさる

分人以財謂之惠教人以善謂之忠爲天下得

三十九

未賢者民與並（耕）
て而（一）て食す（養）養殖
て而（一）て治む
今滕小倉廩府庫有則
是民と厲（一）め以
て自の（一）養ふ也（思）
くんと賢と得

孟子の曰く許子必ず
粟と種て而（一）て後
小食する乎曰く然う
許子必ず布と織て而
て後小衣乎曰く
否許子褐と衣許子冠
する乎曰く冠す曰く
奚と冠す曰く素と冠
す曰く自の（一）之と織與

人者謂之仁是故以天下與人易為天下得人

難（人小財と分ち施すと惠といひ善教と人小施すと忠といひ）又天下と治め万民
のこめ小徳ある人と擧て官職を任ずると仁といひゆつくり大なる事あるは故

小天下と人小讓ゆつくりハまことハ實小難きことあり

孔子曰大哉堯之為君惟天為大惟堯則之蕩

蕩乎民無能名焉君哉舜也巍巍乎有天下而

不與焉堯舜之治天下豈無所用其心哉亦不

用於耕耳（聖人の堯の徳と稱し）惟天の（一）大なる（一）則（一）堯

の心とてハ少り與の（一）す堯舜の天下と治る心と用ざる處あり然り自（一）耕

と事ハ用 吾聞用夏變夷者未聞變於夷者也陳

良楚産也悦周公仲尼之道北學於中國北方

之學者未能或之先也彼所謂豪傑之士也子

之兄弟事之數十年師死而遂倍之

吾今まで人のしひあつハ（一）と聞ふも夏の風俗を以て夷の（一）を愛しハ
あんど夏も夷も愛せざるハ（一）と事と聞する所の方の師の陳良ハ楚の産なり中國小
てハふけととも周公孔子の道を悦ぶひひくくさく北の方中國へ来て学問をふせ
に中く北方中國のこの學者の之先と能ハす彼ハまことに世小所謂あるの（一）豪
傑の士あり然るも子の兄弟之と師と（一）事ハ教十年ある
小一旦之小倍す却て夷の者小愛せざるハ事ハハのんぞヤ

昔者孔子没三年之外門人治任將歸入揖於

子貢相嚮而哭皆失聲然後歸子貢反築室於

場獨居三年然後歸他日子夏子張子游以有

若似聖人欲以所事孔子事之彊曾子曾子曰

不可江漢以濯之秋陽以暴之皜皜乎不可尚

粟を以て器械小易る
者陶冶を厲（一）むと
為不陶冶亦其器械を
以て粟を易る者豈農
夫と厲（一）むと為哉
且許子何ぞ陶冶を為
不舍て皆諸と其官中
小取而（一）て之と用

曰く否粟を以て之と
易る曰く許子奚と為と
自の（一）織不曰く耕と
書す曰く許子釜甑と
以て爨と鐵を以て耕
す乎曰く然う自の（一）
之と為與曰く否粟と
以て之と易

之と焚禽獸逃と匿る
禹九河と疏濟深と滄
諸と海小注ぐ汝漢と
決て淮泗と排ひて之
と江小注ぞ然一て
後小中國得く食す可
是時小當つて禹
外小八年三とび其門
と過て人不耕へん
と欲すと雖も得ん
手

后稷民小稼穡と教へ
五穀と樹藝一五穀
熟一て民人育す人
之道有飽食煖衣逸居
一教へ無とハ則

同のる一麻縷絲絮小くゆその品ハたぐくとも輕と重と同一のハその買若
のる一五穀ふとハ何の品ふくも什量同くハ買りたる若のる一履もたぐく
ふ事小許行その美惡と論ずるともくも長短
輕重小買と同一ヤリ小定んと欲するもの

曰夫物之不齊物之情也或相倍蓰或相什伯
或相千萬子比而同之是亂天下也巨屨小屨
同賈人豈爲之哉從許子之道相率而爲僞者
也惡能治國家

○墨者夷之因徐辟而求見孟子孟子曰吾固
願見今吾尚病病愈我且往見夷子不來

孟子の學者に夷子といふ者孟子の弟子徐辟小因りて孟子小見んと求

ち禽獸小近一聖人
之と愛ふこと有契と
使司徒と爲教ゆる小
人倫と以てす父子親
有君臣義有夫婦別有
長幼序有朋友信有放
勲の曰く之と勞

之と直一之と輔け
之と異く自の之と
得せ使又從く之と振
徳す聖人之民と愛ふ
ると此の如く而
く耕す小暇ゆるん手
堯舜と得んと以て己
が愛と爲舜禹皋陶と

他日又求見孟子孟子曰吾今則可以見矣不
直則道不見我且直之吾聞夷子墨者墨之治
喪也以薄爲其道也夷子思以易天下豈以爲
非是而不貴也然而夷子葬其親厚則是所以所
賤事親也

徐子以告夷子夷子曰儒者之道古之人若保
赤子此言何謂也之則以爲愛無差等施由親

孟子

十年師死して遂に之を倍く

昔者孔子没す三年之外門人仕と治め將小帰らんし特入て子貢小揖す相嚮て哭す失聲して然して後小帰る子貢及て室と場小築く獨居と三年然して後小帰る他日子夏子張子游有若聖人小似るるを以て孔子小事ふる所を以てく之小事へんと欲す曾子小疆曾子の曰く不可あり江漢以て之

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之大則以王小則以霸且志曰枉尺而直尋宜若可爲也

此時孟子天下の諸侯をく小聖人の道の重すべく賢人と尊むべきの理を知らまめんと欲し君子ハ自の賣の理ふまを以て妄小諸侯の礼の薄さゆの小ハ招くことりく至のハず依て門人陳代自の思ふまふると述べ曰く何ゆへ小諸侯小對面しハ朝者とあると古書にも志く曰く一尺の物を枉てありく尋のゆの直く小するとりふたらくは身と屈との小き小く伸とあるの大めるとりくる

孟子曰昔齊景公田招虞人以旌不至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元孔子奚取焉取非其招不往也如不待其招而往何哉

孟子の御答めり其道小非ずしてハ妄小動ると説く昔者齊の景公の田獵小虞人として苑圃とまり司とる官ありとと下知するハ皮冠といふ者小くまめるとり大夫と下知するハ旌とる此田獵の時旌を以て虞人と招きけとハ虞人の方ハ法を守て下知小從のひ至さる景公りのつて殺んとりふことや凡そ

と溜ひ秋陽以て之と暴す皜皜乎と一尚ふ可の不已

今南宮躒舌之人先王之道小非す子子之師小倍ひて之小學亦曾子小異る

吾聞幽谷と出て喬水小遷る者未喬水と下つて幽谷小人者と聞未

曾頌小曰く我狄是齊荆舒是懲す周公方小且之と膺子是と學亦善矣せ不と爲

許子之道小從ハ則

志あるの士ハ權權りふく戰死して溝壑小轉り厭はず勇あるの士ハ元と夜ふく願す其操節とハ志とすとあり聖人小ハ虞人の義と守て定法の招小非とバ往さるるを慶ぶ決て道と守の人ハ何にかと

且夫枉尺而直尋者以利言也如以利則枉尋

直尺而利亦可爲與直すべしとハと利欲心ふるり試み

利を以ていづくたたくハ人小尋を枉て一尺とると直せるといづく爲可の人ゆるんやりの

昔者趙簡子使王良與嬖奚乘終日而不獲一

禽嬖奚反命曰天下之賤工也或以告王良良

曰請復之彊而後可一朝而獲十禽嬖奚反命

曰天下之良工也簡子曰我使掌與女乘謂王

良良不可曰吾爲之範我馳驅終日不獲一爲

市の買ひ取ふ不
國中偽り無五尺之
童と使市ふ適と雖ど
ゆ之と欺むくと或と
莫布帛の長短同
くバ則ち買相若ん麻
縷絲絮輕重同
ハ則ち買相若ん五穀
多寡同
買相若ん履の大小同
くハ則ち買相若
ん
曰く夫物之齊の
不物之情也或ハ倍
徒ハ相什伯
或ハ相千萬す子比

之詭遇一朝而獲十詩云不失其馳舍矢如破

我不貫與小人乘請辭昔者晉の大夫趙簡子その臣嬖奚とりみりハ馬をたつふやくふる獵とふさしむ終日の間一ツの禽とくも獲す嬖奚君へ反命あけて曰く王良ハ天下の賤工ふつとぞ或人ものことと王良小語けとハ王良曰くまの何とぞ君小請復御とあつて試み乗ととぞ瀧ぬのひて可けとハ今度ハ一朝十羽の禽と獲とけるまの度ハ良工と申とける大夫簡子と命人吾專にその方小馬やくと掌しむとあつて王良不可とて曰く吾馬術の範を守り馳驅とまハ一ツの禽とも得ざるハ法と重とするゆふとあつて法を守らずとて詭遇とふす時ハ一朝十禽と獲とるあつて心ある者ハ法と尊崇へさる詩經小の馳法と失ふハざるべし矢の勢力のつく竹と破るととあつてさあふさ小人の輩と馬に乗の法ハ買ふとて辭退と請

御者且羞與射者比比而得禽獸雖若丘陵弗為也如枉道而從彼何也且子過矣枉已者未

有能直人者也御者の者も且羞與射者比比而得禽獸雖若丘陵弗為也如枉道而從彼何也且子過矣枉已者未有能直人者也

く之と同一ふす是
天下と亂る也巨履小
履買と同ぢうせハ人
豈之と爲哉許子之道
小從のハ相率て偽
つと爲者也悪くん
ぞ能國家を治めん

○景春曰公孫衍張儀豈不誠大丈夫哉一怒而諸侯懼安居而天下熄景春とりみり人の曰く昔世の時公孫衍張儀の二人ハ弁舌を以て諸侯小戰をすめすハ和驤とふさしむこの二人怒るとハ諸侯も恐懼と一ふる安居ハ天下の人々ふさる煩とたふす是等と誠の大丈夫とりみり

孟子小見ゆると求む
孟子の曰く吾固
見ると願ふ今吾尚病
病ひ愈て我且往て見
夷子來不

孟子曰是焉得爲大丈夫乎子未學禮乎丈夫

他日又孟子小見ゆると
と求む孟子の曰く吾
今以て見可直ふ不

之冠也父命之女子之嫁也母命之往送之門

正者妾婦之道也孟子答て曰く礼と學びざるゆへにこの二人馬の冠とふす時の礼ハ父とりの命令あり女子の嫁とまハ母とりの戒めの詞あり門口まで送往て曰く今女の家に帰るとり者ふる必ず心と敬と戒めて夫子の心と違とる

戒之曰往之女家必敬必戒無違夫子以順爲

今以て見可直ふ不

正者妾婦之道也孟子答て曰く礼と學びざるゆへにこの二人馬の冠とふす時の礼ハ父とりの命令あり女子の嫁とまハ母とりの戒めの詞あり門口まで送往て曰く今女の家に帰るとり者ふる必ず心と敬と戒めて夫子の心と違とる

今この二人實ハ強き國ハ阿諛て其國の權威ととるは是妾婦のまらふ小ゆとるや

ハ則ち道見ハと不我
且之と直ハ也人吾聞
夷子ハ墨者墨之喪と
治むる薄さと以て其
道と爲夷子以て天下
と易んと思豈以て是
ハ非すと爲而して
貴び不らん然とも夷
子其親を葬ると厚
則ち是賤む所を以て
親ハ事ふる也
徐子以て夷子ハ告く
夷子曰く儒者之道古
一之人赤子と保
ざるが若し此言何
の謂ぞ之ハ則ち以て

愛ハ差等無と爲施す
親由始まる徐子
以て孟子ハ告く孟子
の曰く夫夷子信ハ以
爲く人の其兄之子を
親ハむ其親之赤子
と親むが若しと爲
彼取と有て爾ハ赤子
匍匐して時小井ハ
人んと時赤子の葬ハ
非ず且天之物を生ず
る之を使木を一ツハ
す夷子本とニツハす
る故也
蓋し一上世嘗て其親
と葬むる不者有其親

居天下之廣居立天下之正位行天下之大道
得志與民由之不得志獨行其道富貴不能淫
貧賤不能移威武不能屈此之謂大丈夫

○周霄問曰古之君子仕乎孟子曰仕傳曰孔
子三月無君則皇皇如也出疆必載質公明儀
曰古之人三月無君則弔魏の人周霄の問に曰く古の君子も官祿に仕るとも孟子答のいて曰く
元元の仕るるも傳曰聖人も主君もなし皇皇如やうにすと云う凡て爲士の道ハ國疆の外へ出るハしつゝ謁見の質と載とるす公明儀といふ人の

三月無君則弔不以急乎

曰士之失位也猶諸侯之失國家也禮曰諸侯

耕助以共粢盛夫人蠶繅以爲衣服犧牲不成

不祭牲殺器皿衣服不備不敢以祭惟士無田則亦

寡亦不足弔乎

爲べのの理ふの如くもるを以て誰う甲をせざるの理めらんやとぞ

其招小非一往不
と取却其招を待不
一往ハ何ぞ哉

且夫尺を枉て而
と尋と直する者利を
以て言如利を以てせ
ハ則ち尋と枉て尺を
直す而して利亦爲
可けん與

昔者趙簡子王良の嬖
奚與乘使終日小
て一禽と獲不嬖奚又
命して曰く天下之
賤工也或ひと以て王
良小告く良曰く請之
と復せん疆て而

て後小可一朝小
て十禽と獲るを嬖奚
及命して曰く天下
之良工也簡子曰く我
女と與乘と掌と
使王良小謂良可不曰
く吾之が爲小絶
て我馳驅すとハ終日
小して一と獲不之
が爲小絶過すとハ一
朝小して十と獲る
詩云其馳ると失
ふハ不矢を舍て破ぐ
如く我小人與乘と
買不請辭せん
御者且射者與比ま

曰否士無事而食不可也
彭更すて曰くその義小否す
る者其の身の勤めなり
て食むつ

曰子不通功易事以羨補不足則農有餘粟女
有餘布子如通之則梓匠輪輿皆得食於子於
此有人焉入則孝出則悌守先王之道以待後
之學者而不得食於子子何尊梓匠輪輿而輕

爲仁義者哉
今子のりか処さう遠せうたさくバもの、通用とりかものハ
羨むるもの不足なる処へうで替たがひ小事とさう身入
その功めりて通用さうとならう若やその相様とのなくハ農の家ハ粟のさうさ処
ふく置とさうなく羨むる、女ひすさあう、布ハ無さうに餘を申べさう然ハ
無益ふるなく吾子のりか通用したくハ是ハ限ず梓匠又ハ輪輿ふとも吾子
にヤとハして口糊食物とも吾子よりゆうひ得べさう又たさうていり、さうに人
ゆるべさうその者孝行ふ、先の明王の道を守てふと學者の正と願待
のやうの人ふても吾子に用らるさうハ吾子の扶持と食となさう然ハ梓匠輪輿と尊

とむとしかものよ何れハ仁義を爲ものて軽する哉とならうその心ハ仁義を國小
あ、ゆるむのハ本らう國小ヤ、ハしてその理めゆると心なる、

曰梓匠輪輿其志將以求食也君子之爲
道也其志亦將以求食與曰子何以其志爲哉
其有功於子可食而食之矣且子食志乎食功
乎曰食志

彭更又曰梓匠輪輿ハ始らう其志、利を求め食を求人とす君
子の道ふてり食を求むもの志、なりやいふやとならう孟子答の
ふハ子何れハ志、の処ふて論するやそのもの、勤る功の有無ふてり食を
るなく吾子の爲に勤る功めとハ固らう食を求むべさうの理ふて食を得らう吾
子ハ志、ハ食を求むる心なるや又切ハ食せ、
むもの心なるや彭更すて曰く志に食せ、むもの

曰有人於此毀瓦畫墁其志將以求食也則子
食之乎曰否曰然則子非食志也食功也

孟子よつて説示て曰くそれを心得たのひとし、何んとならさバて、小人は、人ふ
屋上の瓦を毀するハ墁の上を畫ふらう畫ふらう、て其志、ハその所爲とふ

四十八

孟子よつて説示て曰くそれを心得たのひとし、何んとならさバて、小人は、人ふ
屋上の瓦を毀するハ墁の上を畫ふらう畫ふらう、て其志、ハその所爲とふ

四十八

の國も亦仕國也未嘗
て仕るに此の如く其
急なるを聞未仕ふる
と此の如く其急也君
子之仕へ難うハ何ぞ
曰く丈夫生て之が爲
小室有と願女子生て
之が爲小家有と願父
母之心人皆之有父母
の命姪姪之言と待不
穴隙を鑽て相窺ひ牆
を踰て相從ぐふ則
父母國人皆之と賤
む古へ之人未嘗
て仕ふることを欲せ
んバ何未又其道ふ

由不を惡む其道小由
不して而して往
者ハ穴隙を鑽與之類
也
彭更問て曰く後車數
十乘從者數百人以て
諸侯は傳食を以て
泰不乎孟子の曰く其
道非ざれば則ハ
一簞の食人を受可
ら不其道の如くハ
則ハち舜堯之天下を
受も以て泰と爲不子
以て泰と爲乎
曰く否士事無して
食もハ不可なり

望之欲以爲君齊楚雖大何畏焉今宋ハ王政を行ふに
再ハ云ふも益ふ

○孟子謂戴不勝曰子欲子之王之善與我明

告子有楚大夫於此欲其子之齊語也則使齊

人傳諸使楚人傳諸曰使齊人傳之曰一齊人

傳之衆楚人咻之雖曰撻而求其齊也不可得

矣引而置之莊嶽之間數年雖曰撻而求其楚

亦不可得矣孟子未の臣戴不勝といふ語のハ吾子主君の善心とわの
太子に齊の語を習せむるにハ齊人を抱ゆる如す然に一人の齊人を置く傍
ふ楚の言語咻さる時ハ如何にその子と撻さるるも功を得ると不可
夫ハ齊の街里の莊嶽といふ所とて置置て數年の月日を送らばま
く又楚の語を習せむと求めても齊の風に行つるべしものなり

子謂薛居州善士也使之居於王所在於王所

者長幼卑尊皆薛居州也王誰與爲不善在王

所者長幼卑尊皆非薛居州也王誰與爲善一

薛居州獨如宋王何右の類して子今薛居州ハ善士なりとて王の傍
王のくくはハ長くも幼けなきも卑尊する薛氏の如くハ王も不善身の持
うたさすハ若且一人ハ薛氏のやうにあはば王も又誰を見せしめて善
身如何と爲べんや本より一人の薛氏してハ
宋王を如何とも方便あるやとるハ

○公孫丑問曰不見諸侯何義孟子曰古者不

爲臣不見公孫丑問諸侯へ見のハさるとハ如何の義なるぞ
や御昔古ハ事する臣なるとハ見へ奉まつぞ

段干木踰垣而辟之泄柳閉門而不內是皆已

甚迫斯可以見矣魏の君文公段干木が名あるを聞てその家
に垣をよけて進まざる魯の穆公も又

曰く子功と通し事
と易羨を以て足不を
補さハ不ハ則ハ農
餘粟有女餘布有
子如之を通ゼハ則ハ
梓匠輪輿皆食さし
と子不此ハ人有入
てハ則ハち孝なり出
てハ則ハち悌なり先
王之道と守を以て後
之學者と待而一
食さしを子不不子
何ぞ梓匠輪輿と尊と
んで仁義と爲者を輕
ぞ哉
曰く梓匠輪輿其志と

以て食を求んと
將君子之道と爲其志
亦將よ以て食
を求めんと將與曰く
子何ぞ其志と
以て爲哉其子よ功有
ハ食可一て之を食
且子志と一ハ食平
功よ食一ハ平曰く
志と一ハ食一ハ平
曰く人此ハ有瓦と毀
て塼を畫て其志と
將よ以て食と求めん
と將則ハち子之ハ食
一ハ平曰く否曰く
然らバ則ハち子志と

世柳が宅へ至るに門を閉て内へ入さずと成り是ハ皆已甚と
振舞とやいもむさふに追至るに元より見へ申べきと理に當る

陽貨欲見孔子而惡無禮大夫有賜於士不得
受於其家則往拜其門陽貨闕孔子之亡也而
饋孔子蒸豚孔子亦闕其亡也而往拜之當是
時陽貨先豈得不見陽貨聖人の見んと欲ども人を
に大夫より人へ物を賜に家には有合さ其使より親を受ると得ざると
さハ先方へいりて答礼いりてとあり依て聖人の内亡を恐ひ闕て董と
豚の肉を饋つらハ一ハ聖人もや陽貨の内亡時を求て狼礼に往のひ
なり是ハこれ陽貨より礼を始め先とて一ハ見ぞといふこと得ざると
曾子曰脅肩諂笑病于夏畦子路曰未同而言
觀其色赧赧然非由之所知也由是觀之則君
子之所養可知已矣曾子も兼てのめ我常に人を肩を脅
て故もなさに諷ひ笑を見てハこころ苦く

汗をなげ夏の炎天農人の畦より汗をヤそむる如くに覺てさのどくならず又
子路の曰く凡そ人の諷ひあるのハ己が志と同一かかぬとに取合て言ひ
とあり其人の面色を見らに付てハ氣の毒は赧赧然と云ふ一甚と見苦く手前
の存知も事にあつたとぞつと悪く詞なり由ハ子路の名なりあの事に由て觀
ハ君子ハ心を堅め徳を養と見るハ一元より
利欲のすく諸侯はまきゆるとあると云ふ

○載盈之曰什一去關市之征今茲未能請輕
之以待來年然後已何如宋の大夫載盈之曰く
の征稅を止去ハ一との事甚ハ宜
儀に能未請ハハ少のさめハ一て來年を待て尽く己さるんさハ何如と云
孟子曰今有人曰攘其鄰之雞者或告之曰是
非君子之道曰請損之月攘一雞以待來年然
後已如知其非義斯速已矣何待來年
孟子これを辨ハ
或人あつて是君子の道なすハと其の者さるんて曰くさあハ請くハ今より之

小食一むるに非
也功一食一むるに

萬章問て曰く未ハ小
國なり今將王政を
行なりんと將齊楚惡
んで之を伐ハ則之と
如何

孟子の曰く湯亳は居
葛與鄰爲葛伯故
一祀り不湯人を使之
を問て曰く何爲ぞ祀
り不曰く以て犧牲
供る無湯之は牛羊を
遣り使葛伯之と食を
又以て祀り不湯又人
と使之を問て曰く何

孟子

を損て月小一を擡て来年小もなると急ととまると已べしとぞ若非義なり
とあるバ速に已べきなり何ぞのびくに来年とりの事ありんやとなり

○公都子曰外人皆稱夫子好辯敢問何也

公都子問なり外より人のとり沙汰は夫子ハ
辯舌を好むのふとの稱なり何ぞさゆへぞ

孟子曰予豈好辯哉予不得已也天下之生久

矣一治一亂孟子昔のふとん豈に弁舌を好むんやいさこれ已をを得ざる
孟子昔のふとん豈に弁舌を好むんやいさこれ已をを得ざる

當堯之時水逆行汜濫於中國蛇龍居

之民無所定下者爲巢上者爲營窟書曰泂水

警余泂水者洪水也さて治乱に就てハ君子のつとも已をを得ざる
堯帝の時大水逆まに流行

使禹治之禹掘地而注之

海驅蛇龍而放之洧水由地中行江淮河漢是

也險阻既遠鳥獸之害人者消然後人得平土

而居之之は依て堯舜より禹命の禹地を掘て海へ注さるの蛇龍
を道中へ驅せしむる江淮河漢の四ツの大河の地中よりすなると

堯舜既没聖人之道衰暴君代作壞宮室以爲

汙池民無所安息棄田以爲園囿使民不得衣

食邪說暴行又作園囿汙池沛澤多而禽獸至

及紂之身天下又大亂堯舜世と汲のひて道徳おとろへ其の徳
に暴く君とすといく世小作のひて

及紂之身天下又大亂

官室を壞て以て汙池となし田地のいとふくと棄て花園囿となし中く万民

の心安息す衣類食事の心當なきやとなし其上いろく巧なる者より外道邪説を

搆て人を惑しふる園囿汙池ハ次第に多くなるとそのうへまはる水難ハヤマヤ沛澤

ハ多く出来しふとそこのうへ禽獸至るとなりつひて紂王の代ふたりて天下遂に

五十三

孟子

湯始めて征す萬自載
十一征して天下
に敵無東面して征
すとき西夷怨南面
して征すとき北狄
怨む曰く奚爲我々後
不すと民之之を望と
大旱之雨を望う若
市小歸する者止弗芸
ざる者爰せ不其君と
誅して其民を弗す
時雨の降る如く
民大悦つて書曰く
我后を侯后來ハ其
罪無

大乱とぞ 周公相武王誅紂伐奄三年討其君驅飛
廉於海隅而戮之滅國者五十驅虎豹犀象而
遠之天下大悦書曰丕顯哉文王謨丕承哉武
王烈佑啓我後人咸以正無缺然清公武王ののり
與せし東國の奄といふを伐つ三年小してその君を討つて紂王幸樂の飛
廉といふを海隅に驅つて之を戮しむ凡て國を滅すもの五十虎豹犀象を驅つて遠ざ
け放るるを天下の万民大悦ひし書經に曰く丕顯る哉文王の徳の謨
く又おほひたる御徳を受承する哉武王の徳の御烈を後の人までと作惠
て威事と正しし事と以て世衰道微邪說暴行有作臣
弑其君者有之子弑其父者有之ハ治つるの如く
然るに世衰道微といふは邪言なる説と法は暴る所行する者といふ作せてつひ
小臣といふ君と弑し子といふ父と弑すものゆゑなり

孔子懼作春秋春秋天子之事也是故孔子曰

臣爲不攸有東征
て厥士女と縁す厥玄
黄と服し我周
王を紹て休と見惟大
邑周小臣附す其君子
ハ玄黄を服し賈て以
て其君子と迎ふ其小
人ハ簞食壺漿以て其
小人を迎ふと水火之
中を救ふ其殘を取已
太誓に曰く我武惟揚
る之が疆を侵す則ハ
ち殘を取殺伐用て張
湯ふ于て光有
王政を行ふハ不再云
苟小王政を行ふハ

知我者其惟春秋乎罪我者其惟春秋乎
聖人世の如此なるを懼ひて春秋の書を作の春秋ハ君臣父子の行を正し深く
不義を罪して廣る貶るを以て天子諸侯大夫の事なるは故に曰まハ
春秋の書なるん乎とのゆゑなり 聖王不作諸侯放恣處士橫
議楊朱墨翟之言盈天下天下之言不歸楊則
歸墨楊氏爲我是無君也墨氏兼愛是無父也
無父無君是禽獸也公明儀曰庖有肥肉廄有
肥馬民有飢色野有餓莩此率獸而食人也楊
墨之道不息孔子之道不著是邪說誣民充塞
仁義也仁義充塞則率獸食人人將相食

そのうち上は聖王出のさす諸侯いしく放恣なる就中不事し世小處の士ハ各
く己が才智を以て種々の説をつくる横議なるものゆゑなりそのうち楊朱墨翟の

四海之内皆首を擧げて之を望んで以て君と爲ると欲す齊楚大なると雖も何ぞ長とん孟子兼不勝を謂て白く孔子之王之善を欲する與我明ららふ字ふ皆楚の大夫此ふ有る其子之齊語を欲す則ハ齊人を傳へ使諸楚人を傳へ使諸齊人を傳へ之を傳へ衆の楚人之味すくせば日小捷て其齊を求と雖

ども得可く不引て之を莊嶽之間に置と數年日に捷て其楚なりんと求むと雖ども亦得可く不子薛居州善士なりと謂之と王之所居使王の所居長幼卑尊皆薛居州なり王誰と與不善と爲王の所居者長幼卑尊皆薛居州非ざれば王誰と與善と爲一の薛居州獨宋王と如何公孫丑問て曰く諸侯を見不ハ何の義ぞ孟

言天下に入盈せり依て天下の人道とて言者とてくバ楊朱の風なり必す墨翟が道小歸む楊子道ハ己が身と抱へ欲と絶とり方小人身を君の愛るとし義と輕す是君を無のしるふ爲者なり墨翟ハ親疎の隔なく父母を愛する人の親を愛する心は奉下なりといてを父を無けりするものなりと君父の道無ものと輕しむるは是禽獸なる公明儀の言く獸を重し民を恤ざるハ此獸の人を食まむるなりとしく右楊墨の道盛く荒く息を中く獸の人を食はむる人々くさるひひ食合の基ひたりんり
吾爲此懼閑先聖之道距楊墨放淫辭邪說者不得作作於其心害於其事作於其事害於其政聖人復起不易吾言矣
吾此と懼て先代の聖人の道を開て楊墨と距その淫なる辭を放するハ
昔者禹抑洪水而天下平周公兼夷狄驅猛獸而百姓寧孔子成春秋而亂臣賊子懼

禹洪水を抑む周公ハ夷狄猛獸を兼て驅平げ聖人ハ春秋を作して天下平寧にさるぬ亂を爲そ臣下さるる一賊なる子さるる懼慎とて
詩云戎狄是膺荆舒是懲則莫我敢承無父無君是周公所膺也
周公夷狄を膺て荆舒の國を懲しめり
我亦欲正人心息邪說距詖行放淫辭以承三聖者豈好辯哉予不得已也
我亦亦人の心を正し詖行を距とめり右三聖人の志を承と欲のなり是に依て已と不得
墨者聖人之徒也
墨の教をよく言距りのこそ聖人の徒あり
匡章曰陳仲子豈不誠廉士哉居於陵三日不食耳無聞目無見也井上有李蠶食實者過半矣匍匐往將食之三咽然後耳有聞目有見

子の曰く古くハハ臣々不ハ見へ不段干木ハ桓と踰之と辟泄柳ハ門を閉て内不是皆已甚一追る

陽貨孔子に見へんと欲も而して礼無を悪む大夫士は賜を有其家に受ると得不得ハ往て其門は拜も陽貨孔子之亡と闕て而して孔子は蒸る豚と饋る孔子も亦其亡と闕て而して往て之と拜も是時

當て陽貨先づの豈見不と得んや曾子曰く魯肩諱笑夏畦より病子路曰く未と同の不して言其色を觀ハ赧赧然とて由之知所非是は由て之を觀ハ則ハち君子之養る所ろ知可已戴盈之曰く什が一して關市之征を去今茲未と能ハ未請之を輕くして以て來年を待て然して後已ハ何如

齊の人匡章の問なり同國の陳仲子ハ誠に廉直の士といひて凡て人の心の身に切なるものハ居宅と食物との二ツなるに仲子ハ元より貪欲せりて人より受るを耻て於陵といふ処一扱するを居に三日せり食事せざるをありて耳聞ぞ目くくさる一井の上より李ありて蟪由過半くひらるを匍匐して往て三ツせり咽ルをバヤとく聞見孟子曰於齊國之士吾必以仲子

爲巨擘焉雖然仲子惡能廉充仲子之操則蚓而後可者也君子人を誹議する事なり然とも行状を人より問とさハ明なり依て答て曰く今の齊の諸士のうち自立ものハさうにさ一其中よてハ巨擘とく一臣擘とハ手の大指よて餘人をさしたの指よ比し一さる者なり然とも直の廉直といひて欲なき夫蚓上食稿壤下飲黃泉仲子

所居之室伯夷之所築與抑亦盜跖之所築與所食之粟伯夷之所樹與抑亦盜跖之所樹與是未可知也何となきハ蚓の性と一て構ふる壤を食し下ハ濁るる黃泉よのて外に求るをなくきく益もなき者なり仲子ハ

つて蚓の廉直に及ぶるをあらんり子細ハ仲子も人もそんで世よまらうへるものハせむ居室食物のふつあら一その二ツも一や義よあるハさる時ハいひんぞやとなりそをたとえてその室居ハ伯夷が如く廉直なる人の築所ものなまハいひの盜人跖がと犯者の築所よてハなきりその食とそる粟ハこれすハ伯夷が樹とやいハむはと跖が樹とや曰は何傷哉彼身織屨妻辟纊

以易之也匡章又曰く是式にて傷とそるハ足ぞ自身ハ履を織妻ハ纊糸を辟て衣服をなす外に貪ることなすこれと易て食物を爲るの伯夷の如くなすもや曰仲子齊之世家也兄戴蓋祿萬鍾以兄之祿爲不義之祿而不食也以兄之室

爲不義室而不居也辟兄離母處於於陵他日歸則有饋其兄生馘者已頻顛曰惡用是駢駢者爲哉他日其母殺是馘也與之食之其兄自

外至曰是駢駢之肉也出而哇之孟子又説の仲子元來貧き者にあり世々齊

孟子の曰く今人曰く其鄰之雞を攘者有ん或ひと之を告て曰く是君子之道非ぞ曰く請之と損して月一雞を攘以て来年と待て然して後已ん如其義非ぞと知バ斯は速く已ん何ぞ来年と待ん

公都子曰く外人皆夫子辨を好むと稱ぞ敢て問何ぞ○孟子の曰く予豈辨を好ん哉予已んと得んと天下之生久一とびハ治まりとびハ乱る○堯之時は當て水逆行して中國は氾濫を蛇龍之は居民定まる所無下なる者巢を爲て上なる者ハ管窬を爲る書は曰く洚水余を警む洚水者洪水なり○禹を使之と治む禹地を掘て之を海に注ぐ蛇龍を驅て之と道は放つ水地中由行江淮河漢是る險阻既遠く鳥獸之人を害する者消え然して後人平士と得て

の大夫の家なり兄の戴蓋ハ万鍾の祿なり然兄の祿と食せりハ不義なりとて食せぞ兄の室を不義なりとて宿せ母と兄とに辟居て於陵に處なり他日家に歸て兄折ふ兄載蓋に生駝のとりと饋りのあり仲子見て眉を頻顛て曰く悪この駝駝の者を何と爲哉人よりおくるがゆなり駝々とハ駝のさく声なり又他日ハ母の母是鳥をせやとて與て食せしむ折し兄戴蓋外より歸て曰くこれハ過一日の鳥の肉なりとてハ之を聞て哇出せりとて

以母則不食以妻則食之以兄之室則弗居以

於陵則居之是尚爲能充其類也乎若仲子者

蚓而後充其操者也 仲子かくの如く母の賜を食せりハ食せりて已が家は在て妻の供をバ食一兄の家ハ居

宅を以て於陵を居宅を爲るは是操節を充分守の類といえんや是故とこそ蚓は比してなるハ廉直なると同位なるんうき操節を充るのといりんの

之小居○堯舜既没して聖人之道衰ふ暴君代く作る官室を壞て以て汙池と爲民安息する所無田を棄て以て園圃と爲民を使衣食するを得不邪説暴行又作園圃汙池沛澤多く而禽獸至る紂之身に及べ天下又大亂る○周公武王を相て紂を誅して奄を代と三年其君を討す飛廉を海隅に驅て之と戮す國を滅する者五十虎豹犀象を驅て之と遠ざく天下大悦ぶ書に曰く至顯なる哉文王の謨と至承る哉武王の烈我後人と佑け啓て咸正してを以て缺ると無○世衰る道微ふして邪説暴行有作る臣其君を弑する者之有子其父を弑する者之有○孔子懼を春秋と作る春秋ハ天子之事なり是故孔子曰まハく我を知者ハ其惟春秋乎我を罪する者ハ其惟春秋乎○聖王作ら不諸侯放恣處士橫議楊朱墨翟之言天下小盈天下之言楊小歸せ不バ則ハち墨に歸す楊氏我爲ふ是君無墨氏兼愛す是父無父無君無を是禽獸也公明儀曰く庖小肥肉有廐小肥馬有民小飢色有野小餓享有此獸を率て人と食らう楊墨之道息不孔子之道著ハと不是邪説民を誣仁義を充塞す仁義充塞すとバ則ハち獸を率て人と食人將小相食人と將

○吾此ら爲に懼て先聖之道を閉楊墨を距る淫辭を放す邪説の者作ると得ん其心小作て其事を尊其尊に作て其政を善聖人復起り吾言を易不○昔禹洪水を仰て天下平らなり周公夷狄を兼猛獸を驅て百姓寧一孔子春秋を成て乱臣賊子懼る○詩云く戎狄是膺荆舒是懲す則ハち我敢て承て莫父無君無バ是周公の膺所なり○我亦人心を正し邪説を息誅行を距る淫辭を放ち以て三聖者承人と欲す豈辨を好ん哉予已んと得ん能言て楊墨を距る者聖人之徒なり○匡章曰く陳仲子豈誠の廉士や不哉於陵に居三日食せ不耳聞と無目見と無井上小亭有蟻實を食者半に過匍匐して往て之を食せんと將三とび咽て然

一して後小耳聞と有目見と有○孟子の曰く齊國之士小於て吾必ず仲子と以て巨擘と爲然と雖も仲子
 悪くんぞ能廉か人仲子之操を充ハ則ハち甥小して而して後可なる者なり○夫甥ハ上槁壤と食下
 黄泉小飲仲子居所之室ハ伯夷之築く所與抑く亦盜跖之築く所與食する所之粟ハ伯夷之樹る所與
 抑く亦盜跖之樹る所與是未ぞ知可の亦○曰くは何ぞ傷ん哉彼身履を織妻ハ辟纒して以て之と
 易○曰く仲子ハ齊之世家なり兄の戴蓋祿萬鍾兄之祿と以て不義之祿と爲食不兄之室と以て不義之室と
 爲居不兄と辟母と離として於陵處他日歸小則ハち其兄小生る賊と饋る者有己類願して曰く悪くんぞ
 是醜醜の者を用て爲哉他日其母是賊と殺して之と與て之と食して其兄外自至る曰く是醜醜之肉と
 出て之と啜○母を以てすもバ則ハち食せず不妻を以てすもバ則ハち之を食す兄之室を以てすとバ則ハち
 居弗於陵を以てすとバ則ハち之小居是尚能其類と充と爲乎仲子の若う者ハ甥小して而して後小其
 操と充る者なり

孟子 卷之二 畢

